緒言

實業界に身を立つる策あるか。曰く是れあり。譬へば引力の大法が宇宙を支配するが如し。若し此策を玩味實踐せば、適くとして可ならざるはなし。本書微と雖も米國某商傑の實驗より出でたる訓誡に基きて編したるもの。實業界にある少年諸君の爲め立身の礎を造らしむるに於て餘師あらん。若し夫れ實業家の父兄たるものに至つては、本書を一讀せば少年の爲めに途を講ず

41 3 23
内交

るの秘機を發見せん。是れ本書の成る所以なり。

編者識

實業家の成功策

目次

第一章　實業と戰爭　一

●力爭なくんば勝利なく、勞苦なくんば成功なし。大將軍よりも實業家たらん。黃金の捕虜たる名士。不斷の前進。負くることを知らぬ人。成功の資格。力爭なくば戰勝なし。將軍の後半生。運命と富。奈翁の言。

第二章　運命と富　八

●人生に潮汐あり、高潮の時是を捕ふれば好運に導くべし、是を逸すれば人生の全航海は、淺瀨と不幸の中に閉さるべし。一種の小心漢。運命は何を成せるか、運命を信ずる愚人。機會と人生。實力と機會。舊守的實業家。既に遲し既に遲し。實業界の支那人。怯懦病。失敗の原因。自働機械。盛榮の繩。疑惑は成功の敵。依賴心の大攻擊。頼むべきは自己なり。商海の沈沒者。自助の人。ブルメータの名語。

第三章　境遇の奴隷　一八

●予等が天の業なりと考ふる補助なるものは、暫く予等自身の中に存するもの也。境遇は人の造る所。確實なる致富法。機會の利用。デウエーの準備。大機會作るべし。バックストンの語。堅志硬行。人の實力。天賦。ロットシルドの金言。目的の大小。成功とは何ぞ。機會の世界。

第四章　實業家の坐右銘　二六

●實業界にあるや人は正直ならざるべからず、又正直にあり能ふなり。蓋し汝の賣る所は商品にして、汝の同胞にあらざれば也。實業界の戰場に臨む人よ。實業界に出るものゝ心得。經驗の燈火。大膽なれ〳〵。逆境祝すべし。ナポレオン。ソクラチース。商界の豪傑。ビーチヨルの訓戒。成功の秘機。人生は一日の如し。苛重の課税。滯水と怠惰。事業を成す基。面倒を嫌ふ話。最上の靴直し。巨人。失敗なし。老境の歎。實業は幻夢にあらず。卿等の競爭手。ウチルグウチルスの歌。心の調和。胃と肉。勤勞直實。失敗の原因。大小人の差。富の歡迎。浮氣なる權命。智惠の鍵。商業と時勢。想像力は資本。思想の實行者。愚人の膽語に學ぶべし。操行方正。ミラボウの語。商店の組織。規律と秩序。モルトケを見よ。乾坤一の大商戰。商は牛の涴。寶品の確實。盛衰の理。商業の脉搏。商業の木と園丁。貪苦の順境。商業盛大の吹聽。政治と商業。商人と健康。記憶力の練磨。心勞は人を殺す。過勞戒むべし。米國の惡弊。恐るべき實例。裏書は大禁物。他人の爲めに倒れされ。直往せよ。輕卒なる投資。貯蓄の必要。フランクリンの貯蓄論。店員の選擇。議論よりも商賣。

第五章　商業の基礎　六〇

●資產を與ふるよりも商業の基礎を與へよ。堅志硬行の人。一定の目的。一意、一目的、一行。オレリアス。ケーテ。集注力。カーライル。兒童の職業。頭腦と腕力。根本主義の鼓吹。ハマートン。經驗、便直、堅志。放縱と自出。資產ある青年實業家。臥薪嘗膽せざるべからず。急に積まれし富。功名心なき製糞器。教育の人。實務教育とは何ぞ。商業の法則と引力。機運を待ちて富者となれるものなし。エモルソン。兒童の性格と專業。强制の大弊害。壯年時代の人。天性と職業。逸れる駿馬。功名心の日光。支那人の轍を蹈む勿れ。內障眼を切り去る小刀。强力の害。グラッドストーン。社會の將來は母の手にあり。兒童の養育。凡べての職業は神聖なり。シドネースミス。天然の命。メールの記事。卑賤より起れる人。年齡と事業。商海の暴風雨。

第六章　廣告の利用　八三

●予等は詩歌、音樂、美術なくして生活し得べし。予等は良心なくして生活し、心情なくして生活し得べし。予等は友人なく、又誇負心なくして生活するを得左れど今日の商業は廣告なくして生存し能はぬなり。大資産は廣告の紀念。機敏なる商人と廣告。象知。廣告は燈火なり。廣告は商業の寒暖計。廣告せぬ愚人。エピクテトス。廣告にて身を起せる人。新聞の勢力。一意一心の話。商業城の攻撃法。廣告は商家の最大要務。廣告の精神。リンコン訓戒。一部の商家膨脹史。廣告を中止すべからず。吝嗇なる廣告家。廣告術の要訣。注意すべき條項。廣告の功能。

第七章　希望　九四

●希望は永遠に人心に湧き出づ、人は常に幸福ならず、左れど常に幸ならんとするなり、家郷を離れて不安なる人は、來るべき生活の中に憩ひ且つ住む。希望は人の動機。希望の神力。希望は人の生命。最後には王冠あり。知足と希望。心の光。

第八章　自助の詞　九八

自助の歌。最後まで戰へ。悠々たる心。煩悶を拂へ。希望と熱誠。

第九章　實業家と家庭　九九

●君よ家に止りて老翁の訓言に聽け、他人の竈によりて暖を取らんとする勿れ、我家の紫色せる烟は彼岸の火よりも暖きぞかし、手料理は不躰裁なれども健全なり、外なる佳肴は美味なれども毒を含めり。友人の忠言も當にならず。信任せる雇人。家庭の批評。妻女の言用ひざるは不可。婦女は潜水者。愚の頂上。商戰と家庭の平和。妻女の言より發明する處あり。アルビング。妻女の責任。家庭は湖水の如し。美妙なる婦女の激勵。事業は家庭の力に依る。家庭に秘密なし。家庭の根據。

第十章　飲酒と實業家　一〇八

●汝酒よ、汝若し呼ぶべき名を有せずんば、予等をして惡鬼と名けしめよ。恐るべき惡鬼。禁酒と節酒。酒は心の錆を生ず。酒は意志を弱す。實業家の大敵。梁王。記臆すべき語。飲酒の實例。惡鬼。

第十一章　雇人立身の道　一一三

●才幹を發揮せよ。然れども自負する勿れ。好情と雇人。エモルソン。立身の秘訣。進取的ならざる可からず。自他の區別を設けぬ勉強。エリラット。客に對する法。勘違ひの了見は禁物ぞ。ドツヂ。心得違ひ甚しきもの。驕慢身を誤れる書記。辭職せば窮すべきぞかし。

第十二章　自助の人　一二〇

●天は自から助くる人を助く。(一)古河市兵衛。銅山王。盛岡に行く。小野組に入る。外商と取引す。成功の始。銅山業。足尾銅山。彼の丁髷。進歩的の人。勢力の集注。(二)アレキサンダー、チー、スチユアルト。他年の雜貨王。商畧。如何して成功したるか。(三)ジョン、ワナメーカー。膽勇の産兒。新規なる開店。廣告術。彼の題辭。(四)安田善次郎。常道を蹈みたる銀行王。一兩の資本。鰹節の一小商人。漸く順境に向ふ。安田銀行起る。百万圓の安田銀行。單厚社。共濟五百名社。貯蓄が根本。積塵爲山の格言。(五)ヘンリー、ビー、ハイド。エクイテーブル保險會社。會社を起す。(六)澁澤榮一。實業界の重愼。個人的信用の人。志士的時代。慶喜に用ひらる。佛國行。官途に就く。實業家となる。一部の實業發達史。(七)ジョン、ヂー、ロックフエツラー。石油大王。不可能事なし。一億一千萬弗の大會社。(八)アンドリウ、カーネギー。カーネギーの鋼鐵。苦き經驗。彼れの機運。(九)クラウス、スプレツケルス。砂糖王。見よ此建築を見よ。(一〇)今村清之助。小說的閱歷。横濱に發る。再度横濱に來る。蝶螺の壺燒。弗屋となる。彼の轉業。海外行。鐵道と銀行。(一一)アドルフ、サツトロー。クリツフハウスの主人公。失敗して彌々勇を皷す。大墜道の計畫。大工事成る。卒倒するまで勉强す。クリツフハウスを造る。サツトロー浴場。(一二)松本重太郎。關四の雄。舶來物品商。彼れの事業。●實業家子弟に望む。

目次終

實業家の成功策

大將軍よりも實業家たらん

第一章 實業と戰爭

▲力爭なくんば勝利なく、勞苦なくんば成功なし▼「予は大將軍の光榮よりも、成功せる實業家たる名譽を得たらん事を望むなり」とはグラント將軍の語りし所なり。將軍の如き南北戰爭の當時、北軍の將校となつて南軍を破り、奴隸開放の道を開けしもの、雄名四隣に馳せ、兒童走卒又彼れを賞讃せざるなし。大統領ワシントンの任期盡くるや、將軍推されて其後を襲ふ。假令不幸長く此職にある能はざりしとは云へ、一身の光寵豈此に過ぐるものあらんや。然も尙大將

黄金の捕虜たる名士

不斷の前進

たるの名譽よりも成功せる實業家たらん事を欲せるものは何ぞや。武將の名譽が空にして捉ふべからざるが故なり。見よ、世上幾多の知名士多くは財寶なく獨立なく、往々黄金の捕虜たるもの尠からざるを。且つ實業家の成功も、武將官人と均しく、先見を要し、不斷の前進、鋭敏なる判識、平靜なる思慮を積み、名譽の段階を經て其頂上に達せるのみ。其成功の法豈多く異る所あらんや。彼れ其前路に障害の横はるを見るや是を排除して進む、溝渠路を阨すれば是を超越す。好運の寵惠を得ざるも、凡べての機會を利用し、勇者の戰場に望むが如く、人生の馳場に向ひ、頑强なる抵抗に會しては彌々其勇を皷し、嘗て意氣沮喪降を軍門に請ふ事なし。是れ豈クラント將軍の戰法にして、又大實業家の、術策にあらずや。

將軍の劒を取つて戰場に立つ、恰も實業家が算盤を手にして商戰を試

負くる事を知らぬ人

成功の資格

むるの躰度なり。將軍の戰に臨むや敗北の禍に遭逢したるもの幾回なりしを知らず。然も嘗て敵に對して怯色なく、成功を見ずしては止まざりき。負くる事を肯んぜざれば勝利自ら來る。詩人歌ふて曰く、確信は人を征服す、一人の强健鐵に似たる意志は千人の匹夫を戰慄せしむ。一人の懦夫猛然として起つや敗を轉じて勝となし、遁竄せる幾多の巨漢をして再び戰場に臨ましむと。

クラント將軍は敗北なるものを知らざりき。語を換ゆれば、彼は敗北を甘んじ能はざりしなり。彼れ敵に逐はるゝや、却つて軍を督勵して突擊之を破らずんば止まず。然かも彼の戰法は情感に任ぜるにあらず。一として經營慘憺の後に出でざるはなし。唯意一決するや驀然直往せるのみ。

クラント將軍は成功の武將たるべき資格を悉備せり。先見は確固、計

力爭なくんば戰勝なし

書は精細、着手は確實、加ふるに事を爲す熱誠にして、克く心身の艱苦に耐へ、決意嚴として動かすべからず、目的變ぜざりき。一八六四年五月初旬將軍戰地より華盛頓政府に書を送りて曰く、假令夏を卒ふるとも、予は此方略を以て戰はんと欲するなりと、一語其意志の牢乎抜くべからず、自重の念厚きを窺ふに足る。機會を利用し、境遇に打勝つは彼の得意とする所なり。將軍の如きは人生の光榮を極むべき英雄の一人と云ふべし。リンコン奴隷開放の宣言も將軍なかつせば、死文に歸したるや未だ知り難きなり。

將軍の題言に曰く「力爭なくんば戰勝なく、負擔なくんば力量なし」と。

戰爭の大海に巨浪逆捲き、疾風怒號するの時、危險が眼前に逼り來るの時、滿天の黑雲を流せるが如く恐怖人を襲ふの時、赫々たる太陽の光が毀縮を感ぜしむるの時、將軍は敢然として進めり。其行くや殆ど無人の地を走るが如く、常に位地の主人公たりき。彼は此の如くにして國家を守り、人道の大義を樹て、米國の研結を强大ならしめぬ。將軍の武功實に偉ならずや。而して是れ不斷力爭の結果に外ならず。

將軍の後半生

人生の波濤は岩根を離れし海草の如くに、吾人の運命を飜弄すと。リンコン刺客の手に斃れ、ジョンソン代りて、大統領となり、其任滿つるや、グラント將軍は推されて大統領となりしも、選擧の訴訟は端なくも將軍の敗に歸し、又先の布衣の人とはなりぬ。將軍是よりして實業界に投じ拮据經營する所ありしかど、流石戰場の勇者も商戰の驅引には拙劣たるを免がれざりき。彼の資產を托したる海上銀行倒產せんとするや、共同人の言を納れ、ヴァンダービルトより十五萬弗を借りて、一時其急を救ひたるも、遂に是を支へ終る能はず。銀行解散し、將軍は其田園、邸第所藏品を賣り盡して、ヴァンダービルトの私債を償却し盡すや、

彼の資産は殆ど零に歸せり。此に於てか將軍は新生面を拓き始めたり。グラント傳の囑稿即ち是れ。

グラント傳漸く成るや、天は其門を開ひて將軍を迎へぬ。彼れ死の近づくを知り、武人劍を收めて戰を休むるが如く、從容筆を投じ、天に謝して曰く、著述は成さるべしと。遽然として逝きぬ。若し此傳なかつせば彼の遺族は他人の輔助を得ざるべかりしなり。將軍の不屈なる、老境尙筆を取つて、他の輔助を待たず。何ぞ其志の毅然たるや。

將軍常に運命の賜なりと云ふものを蛇蝎視せり。成功は驚くべき實力、先見及び健良なる判斷功名心とに由つて得らるゝものにして、超自然の勢力に負ふ處なしとは彼の主張なりき。彼れ曰く「運命又は超自然の勢力に由りて富を積める徒は、之を失ふも亦同じく速ならん。彼等は此畢を以て不運及び神冥の憎惡に歸するなり」と。大なる富は異常なる膽力と注意に發するを知らずや。富を積むは易く是を保維するは難きを知らずや。將軍又成功の實業家に要すべき資質を擧げて曰く、卓越なる思慮、不易なる目的、不撓なる勇氣、強健なる意志と。豈此他あらんや。

奈翁云へるあり、古來名將の成功したる所以を察するに未だ嘗て彼等が成功せんが爲め萬般の準備をなすに汲々たりしを見ずんばあらずと。是れ實にグラント將軍の遵奉したる主義なりき。實業の戰爭も兵戰と異ならず。予等の此にグラント將軍に就て詳言するもの、其戰法の實業界に應用すべきを見るが故のみ。且つ實業家の名譽は武人官人の上に出るあるを信ずるが故のみ。請ふ以下予等の說く所に聽け。

第一章　運命と富

人生に潮汐あり
高潮の時是を捕ふれば好運に導くべし
是を逸すれば人生の全航海は
淺瀨と不幸の中に閉さるべし

シエーキスピーア

一種の小心漢

世に一種の小心漢あり、唯戰々競々として其行路を圍繞せる艱難危險を避けつゝ進むを知るのみ。彼等敢爲を以て百敗の起因となすが故に、極めて遲々として進み、或は佇立して又前進するの勇を失ふ。是れ坐して貧困の暗雲が身邊を閉鎖し、盛榮の太陽が西山に沈み去るを看過するに異ならず。此徒は孰れの社會にも少からず。然れども其最も多きを實業界となす。

運命は何人が成せるか

試に實業家に問ふに、事業の景氣を以てせよ、屈託顏を以て答へざるものは少なし。彼等は實に好望を以て事業の前途を目するを恐るゝものに似たり。而して彼等が其非運衰退を慰むるの辭を聞けば、曰く、運命我に反するを以てのみ。又止むを得ざる也と。然も知らずや運命は未だ嘗て貧しきものを惠み寒へたるものに衣せ饑へたるものに食を與へたる事なく、將又人の爲めに富を造り、盛榮を齎らしたる事あらざる事を。

且つ運命は人心を快活ならしめざる也。感興を清新ならしめざる也。苦酸を甘味には變ぜざる也。人生の重荷を輕めざる也。人は不易の大法に從ひて動き、優勝を競ふて其性質を形造る。運命又何の關する所ぞ、人豈し運命の玩具たらんが爲めに生れたるものならんや。

「時けるものは苅らざるべからず」

運命を信ずるもの

運命を信ずるものは、譬へば漫然として門際に佇立するものゝ如し。彼れが好運を待望しつゝある間に、日は既に西に沈みて、夜は來れり。然れども身を暖むべき爐火なく、暗黒を照すべき燈明なく、其前に置かれし食器は空なり。彼即ち愁然として曰く、明日何等の好事か出來せん。予は「待望」を以て今夕の食に當てざる可からずと。何ぞ其無爲なるや。

機會と人生

彼等は何が故に、思慮を決し、目的を定め、勇氣と希望と、確信とを以て成功せんと欲せざるか。青春の活氣と敢爲の精神を以て予等の師表たらしめよ。然らばインスピレーションは萬丈の光焰の如く、予等の前途を照らして、希望の地に達せしめん也。

機會は事業を爲さず、其は唯軟風を送る。然も水夫船頭に在つて眠らば、予等を彼岸に送るべき其風は、却つて予等を淺瀬に乘上らしむるや知るべからず。風が強く吹くも、弱く戰ぐも、水夫の職分は唯之を凝視するにあり。是れ人生の航海者が最も意を用ゆべき所也。

實力と機會

卒然成功するものあり。然れども是れ運命や機會に由つて來るにあらず。人如何に周到なる注意を以て立身の途を講ずるも、彼れ若し適材にあらずんば、寧ろ嘲笑を購ふに過ぎず。何の成功か望み得べけんや。ヂョンソンの曰く、實力ある人は決して看却せられず。目的を成就し能はざるの徒あるは其決意を缺き且つ成功すべく手腕不足なるを以ての故のみと。

守舊的實業家

現今の實業は綿密なる思想と、機敏なる活動とを必要とす。商業の船が實業社會の大洋を走る、宛として麋鹿の丘陵谿谷を快馳するに似たり。予等は今や新陳代謝の時期に立てり、舊代の計策に忸み、守舊主義の城塞に立て籠るものは、成功の太陽が赫灼として進むを知らずして、

唯、自家の影徒らに長くなりやがては暗黒の中に葬らるゝを發見するに終らん。

既に遅し飯に遅し

潮の來るに乘じて進め。時機を待つ事なかれ。時機を待たば、其來るや恐らくは頽齡、虚弱、悲歎、失望交々一身を襲ふの時にあらん。此時に當り抵抗すべからざる勢力が、彼を苦難の荒磯に持運ばんとするを支へんとするも徒爾のみ。耳を倚てゝ聞けば、彼方の岸打つ浪の音は、「既に遅し、既に遅し」と響く也。ホイッチアー歌ふらく、筆舌を以て語らるべき悲しき言語の中、最も悲慘なるは「かくありたらんものを」と云ふにありと。予等は潮流に乘じて邁往せざる可からず。然らずんば予等の事總べて休す。

怯懦者は實業界に入る能はざる也。愼重は尊むべし。然れども卑怯は一の罪惡たるを知らずや。衰退の原因を研むるは、進歩に至る所以なり。然るを世是を嫌ふもの少からず。彼等は實に支那人に似たりと云ふべし。支那人の日蝕を望むや、太陽を呑下せんとする惡龍又彼等をも食ひ去るべしとなし、畏怖禁ずる能はず、銅鑼を擊つて、僅に其氣を散ぜんとす。何ぞ其痴なるや。

實業界の支那人

怯懦病

盖しヨンソンの言へるが如く、怯懦は頑强不活なる人心の疾病也。故に人一度何等の障害と雖も其排除し難き事を聞くや、然か信じて疑はざるが故に、之を除かざる也。然れども實際其障害を除く能はざるは、彼が怯懦病に襲はれたるに由る。

失敗の原因

世には矜驕自ら持し、若しくは洞察の明なく、自他成否の分るゝ所以を知らざるものあり。此徒は深く事業衰退の原因を研め、自家の欠點を改むるに吝なるべからず。是れ進運を開く所以也。原因なくして結果なし。惡果を齎らせる原因を發見せよ。或は寧ろ此失敗の原因を

紀せ。失敗の結果には失敗すべき原因あり。

自働機械

又一種の實業家あり。機械の如く規則正しく其事務所に至り、一日幾時間を限られたる自働器の如く兀々として事務を執り、晝て安居休息、心身を靜養する事なし、かくて彼等は身躰活動の主力を消磨し去る。豈歎ずべからずや。

盛衰の根

實業家は其頴才を麽ぎ澄し、其職業に忠實に確乎不抜、機敏信切、以て逆運を抗拒せざるべからず。彼等を盛榮の地に引くべき繩は三條の筋より成れり。一は忍耐也、二は勇氣也、三は堅志也。好機に充てる倉庫は各人に向つて開かれたり。各人が己れを維持し、快樂を得ると否と、皆各自の力役如何に由る。自然は寛厚なり。其財寶は惜氣もなく、事業家の懐に注がるべし。唯予等は此恩惠に與らんが爲め、天然を助けざるべからず。時運に伴はざる可からず。潮流に乘つて泳がざるべからず。

疑惑は成功の敵

危難眼前に逼るも毅然として之に對抗せよ。決して恐怖するなかれ。卿等の事業に欠隔あるを見出さば、眞に是を補愼する、彼の水夫が船底に孔隙生じて、船躰沈沒せんとする時、直に喞筒を用ひて救助に着手するが如くせよ。醫藥の功あるは是を考量するよりも呑下一番するに存す。疑惑は予等の暴君と云ふべし、恐れ惑ふて企擧せざるが故に、予等の幸福を失ひ終る事幾千なるや知るべからず。予等の立身と否と皆身内にあり。運命の係る所にあらず。

過來數十年間に於て商業の活動は漸次に其度を加へて、今や一種の天才とも稱すべき技能を要するに至れり。思慮は力役と混和せられざる可からず、頭腦は手腕と共動せざる可からず。かくて世界の富は增積せられ、美術や、文學や、科學や、文明の進歩は遂げらるゝなり。

依頼心の大攻撃

ゼー、ヲー、ホルラント曰く、世界何ものが、空しく他の救助、扶持を望み、他人に依頼し、他人勞苦の結果を享受せんと欲するほど、女〻しく且つ卑劣なる精神あらんや。然も青年子弟の中、其渇望する生涯の成功を得せしむべく、好都合にも何處よりか應援の來らん事を夢想して止まざるものあり。予は其血管には雄壯なる血液通じ、其肩は廣く、其躰量は百五十封度内外にして、強健なる筋骨を有する青年が、漫然其手を懐にし、他人の助力を待望しつゝあるを以て、世界無比の厭惡すべき現象なりと信ずる也。勿論最も獨立不羈の人も助力を受くべき場合なきにあらず。即ち事實に於て之を望むの場合もあらん。然れども是れ害惡を受くるに當つて之を選擇するより生ずる止むを得ざるものならずんばあらず。苟も自助獨行し得る人にして、彼れが一生の畫策を成就せん爲め他の助力を望むものあらば、是れ其人の最も憐れむべき訓

頼むべきは自己なり

陶海の沈沒者

練を受けたるを證するものなり。然らずんば彼の心中には戰慄すべき卑劣なる分子の存する事を明かにするものなりと。

請ふ、決して他人の勢力に依頼する勿れ。卿等の頼むべきは卿等自身の外にある事なし、世の認識を博すべき卿等自己の力倆の外にある事なし。境遇は或は卿等の事業を妨害し、或は助成せん。然れども其大部は卿等自身の力を以て是を左右し得る事を知らざる可からず。千艱萬難を排斥して、其目的に向つて勇往する青年を見よ。何ぞ其雄なるや。何ぞ其快なるや。自ら驚く豪氣尚未だ盡きざるを、一難を經る毎に一倍し來る。成功の實業家は實に此の如くならざる可からず。常に他人の助力を求むるものは何事をも爲し能はざるべし。一朝危機に臨まば、彼等は呆然として自失するの外なからん。非運の疾風吹き荒さめば、彼等は直ちに安全なる港灣を見出さんとすなり。而して

偶々之を發見し能はざるや。彼等は風波を凌がんとせずして、腑落ち、神失せ、座して沈沒し終るのみ。

自助の人

自助の人を見よ。其成功は盖し自己の力倆を支柱としたるに由る。

詩人歌ふて曰く、

予等の生涯は、予等の造る所に從つて或は幸福なり或は呪詛たらん。
四圍の境遇は如何なるにせよ、予等にして身を起すの志あらば即ち成らん。
予等若し意志あらば、扱山倒海の力能は予等に與へられてある也。

と。卿等の性格を夢想する勿れ、卿等は切磋鍛錬自己の性格を玉成せざるべからず。プルターク曰く、誰か土塊を濕し、是を放置して、機會と好運が是を充とせん事を望むもののあらんやと。眞なる哉語や。

プルター氏の名語

第三章　境遇の奴隷

予等が天の業なりと考ふる補助なる者は、暫く予等自身の

境遇は人の造る所

中に存するもの也　シエーキスピーア

ヂスラエリ云へる事あり、人は境遇の造る所にあらず。境遇は人の造る所と。ガーフイルド嘗て實業の金言を敎へて曰く、何ものか生じ來ちん事を待つなかれ。請ふ進んで何ものかを生出せよと。勤勉勞役の人が大事を成さんとするや、決して其運動を躊躇する事なし。強硬なる反對、猛烈なる駁論あるも、斷乎として其決意熱誠を以て是を除芟す。尋常人に取りて不可能の事が、案外容易に成就せらるゝは此の故也。シーザー嘗て戰ふて敗走せんとするや、突如として嚴令を下して曰く「右向き前へ進め」と。三軍死力を盡して敵陣に逼り、遂に大勝を得たりき。

機會を捕捉せんと欲せば、平生實力を養ふ處なかる可からず。然らずんば是を捕捉せんと考ふる間に、時機逸して又奈何ともし難き事なき

確實なる致富法

を保せず。青年子弟師等奮つて自ら機運の礎を作れよ。最も確實に富を得るの法は、自ら是を造り出すにありて、人の造りたる富を蓄積するにあらず。過去の生涯を回想せよ。如何に多くの機運が失はれてあるよ。好機の在るは僅に一轉瞬間なる事屢々是あり。一度之を失へば、更に數月、數年若しくは一生を費さゞるべからざらんとす。エモルソン曰く、人は河上の船に似たり。彼は一方を除きて各面に存する妨害に反抗して走る。此一方に於て百般の妨害は取り除かれ、彼は水深き江心の上を疾走して無限の海洋に入ると。人若し將來に對し周密なる計策を有せば、機會を利用するを得べき也。

機會の利用

機會到來せず、空しく有爲の材を抱ひて、用ふるに處なきに苦しむ事あり。然れども機會は予等が尋常一樣の事として注意を拂はざる間に、逸脫する事多き也。一人王宮巨館を欲するの時、他は草庵荒亡に遷取す。花崗石は一人に取りては進歩の階段となるべく、他に取りては其進路の障害たらん。

デウエーの準備

デウエー提督は機會を捉へん爲め暇日準備して惰らざりき。一旦時機到來するや、彼は之を攫みたり、之を征服したり。幾干ならずして彼は巨然たる世界の英雄となりぬ。提督が米西戰爭マニラの役に於て倖勳を奏したるもの、實に平居機運に備ふる處深かりしか爲めならずんばあらず。

大機會作るべし

「大機會」の來るを待つ勿れ。普通尋常の機會を捉へて、大機會と成らしめよ。鐵の熱せる間に鍛つは可也。然れども、鍛つて〳〵鍛ち續けて鐵を熱せしむるは、更に可ならずや。事業を放擲する事より外には失敗なるものなし。人の努力する間は、眞實の墜落はあらず。蓋し一時の失墜は强者をして賢良ならしむるもの也。實や敗北は內より發す

と。卿等若し負くる事を知らずんば、勝たざらんと欲するも得ざる也。

バツクストンの語

フヲーウエル、バツクストン曰く、予は年を經るに從ひて彌々深く人物に強弱、大小の差を生ずる所以は、執着力と不撓の決心と、一定の目的を定めて死生を堵するの如何に由る事を確信するに至れりと。此世界に於て何事をか成さんと欲せば、責任を負ふを畏るべからず。人生勝利の大半は之を得んと欲するの猛志に由れり。若し目途を欠かば予等の享けし賜も何するものぞ。成功は空望夢想に由りて得られざる也。努力忍耐を以て立たば、社會の潮流に浮びて無爲無策なるの道理あらず。

堅志硬行

堅志は大業を成す人の特質なり。彼等は逆境よりして成功を齎らさんか爲め大道を求めたり。此大道とは他なし。不斷の力爭不斷の奮鬪是れのみ。彼等の成功は其障害に打ち勝ち、反對と奮爭したる紀念なり。奮戰激鬪の創痕なき人は、共に成功の意義に就ひて語るに足らざる也。

人の實力

エモルソン云へらく、人は關係の集合躰なり。根の壘塊なり、而して世界は其花、其實なり。彼の材力は彼の入るべき世界を標榜す。譬へば魚の鰭を見て水の存する事を知るが如し。奈翁を孤島に幽囚せよ。彼の材力を用ふべき人間社會なく、登るべきアルプスなく、活動すべき危難なからしめよ、然らば彼は空を搏たん、彼は痴愚の如く見ゆべし。彼を大國、多人、利害錯綜し、勢力競爭する處に移せ、汝は先の典型に縛せられし奈翁なる人の、眞實の奈翁にあらざりし事を見むと。

天賦

夫れ人は天賦の材能を以て生れたるものなり。マシウスの云へる如く、致富の天才を以て生れたる人あり。彼等の富を蓄積する殆んど天能なり。彼等が數金を有するや、商賣或は投資に由りて之を數十金に

ロットシルドの金言

變ずるの材能傾向あるは、猶ヲエークスピーアがオセロ、ハムレツトを作り、ラフワエルが禎書を書きベートーウエンが樂譜を編み、モルスが電信機を發明するが如く之を禁遏せんと欲して能はざる也。後者にして其天能を看却して、積富を業とせば其任務に負き、天惠を蔑にするの甚しきものと云はざるべからず。均しくロットシルド、アストル、ピーボッヂーの徒、其天性に背き力を其巨人となるべき事業に盡さずして、却つて侏儒たる方面に用ひば、之れ罪惡を犯したるに異ならず。

多くの人の好運は、他人の顧みざる小事物の中より造られたり。同じ花の中より、蜘蛛は毒を採り、蜂は蜜を吸ふ。甲は尋常事業よりして立身の基を力作し、乙は唯貧賤と失墜を得來るに過ぎず。ナサン、ロットシルド曰く、我成功は總べて一の金言に發せり。何ぞや「一人の爲し能ふ事は予も亦之を爲し能ふ故に予は彼等と競爭するに足る」と云ふに

目的の大小

成功とは何ぞ

ありと。

サーヲヨンラボツク、嘗て記すらく、羅馬の皇帝マルカス、オーレリアスは、蜘蛛は蠅を捉へし時、一人は狡兎を捕へし時、一人は小魚を網せし時、一人は野猿を獲し時、一人は熊を取りし時、一人はサルマチア人を捕へし時得意なりと云へり。此語一面に於ては名勢の空なるを示すものと雖も、又以て人の目的が道理に適はいざるを之を達し得べき事を證するにあらずやと。此世に生れ出でたるものの誰かは天賦の事業を有せざるもののあらんや。働かんと欲せば事業あらざる事なく、働くべき器具備はらざる事なし。勞作に鍛はれし鐵腕は祝すべき哉。

此進取、力爭の時代に於て成功せんとせば、勉強、各般の事項に通ぜざるべからず小事にも苦心せざるべからず。成功とは他人の無頓着に爲し去る事を完全に成し遂ぐるに外ならず。車輪を廻轉する勢力活力

は、實業界の機關を動かすもの也。故に其結果を見ば、卿等が其力を用ふるに怠惰なりしか、將又偉功を奏したりしかを證するに足る。

機會の世界

世界は之を用ひ能ふ人に向つては凡べて門戸なり、凡べて機會なり。赤手家郷を出でたる青年が巨萬の富を得るは、自ら機運を造るに由る。堅志硬行何事か成らざらんや。再言す、境遇は人を作らず、人却つて境遇を作る。

實業界の戰場に臨む

第四章　實業家の坐右銘

實業界にあるや人は正直ならざるべからず、又正直にあり能ふなり。蓋し汝の賣る所は商品にして、汝の同胞にあらざればなり。

米國現大統領シヤドル、ルースヴエルト、一隊の義勇兵に將として米西戰爭に出陣せんとしたる時、其部下を集めて演說して曰く。

實業界に出るもの心得

諸君、諸君は今や最後の決定をなすべき時に達せり。若し諸君の中出役を欲せざる人あらば、即時是を語られよ。今よりして一時間を後れば退役するを許されざる也。諸君一度入隊せば、諸君は其最後まで止まらざるべからず。諸君に向つて如何なる貴務を負はしむるも、如何なる難苦、危難が之に隨伴するも、諸君は斷乎として之を成し遂げざる可からず。何等の事が起るにせよ、諸君は痛苦を訴ふべからず。諸君、請ふ是を熟思せよ。

と。移して實業界の戰場に臨むものを、戒むるに足る盖し商戰も戰爭も其眞相に於ては一なり。戰爭に於て勝敗の數未だ豫じめトすべからざるが如く、商戰に於ても亦た如何なる失敗あるや知り難き也。或は企業の舟に掉して無事に怒濤の中より免るゝもの

あり、或は勞苦力役、是れ日も足らざるに、其舟は失敗の暗礁に乘り上ぐるものあり。非運は誰しも是を免がる能はず。成功の徑路は超ゆべからざる困難と困難との間に介在せり。好運に至る飛石の數は少くして、其距離は遠し、盛榮の埠頭に達せんには、愼思熟慮を以て其間を滿たさゝるべからず。卿等若し眞に其目的に達せんと欲せば、志の堅固なるを要す、眞友は暫々失敗の假裝を施して人に見ゆる事ある也。

經驗の燈火

曰く、予は脚下を照らさんが爲め唯一の燈火を有す、經驗の燈火、即ち是れなり。予は過去に由つて將來を判斷するの外なき也と。成功著大なるものも時として貧困の波濤に離弄せらる。聲望隆々の人、時に突如として放擲せられ、貧苦、失望と戰はざるべからざる事あり。位地境遇に係らず、不幸は誰人の頭上にも墜落し來る。實業は因果の法則に從ふ、其一起一伏、一揚一柳皆原因の存するを知らざる可からず。

大膽なれ〳〵

成功の頂上に達したる人よ、盛榮をして放縱逸氣遂に卿等を奴隷とするに至らしめざれ。失墜の淵に陷れる人よ、是に抗ふの勇を失はざれ、卿等頑然として其地位を固守せよ。恐らくば難境を免るゝを得ん。請ふ卿等の壁に、かの古き名言を題せよ、大膽なれ、大膽なれ、何處に於ても大膽なれ。然れども餘りに膽氣に逸するの勿れ。然も膽力を欠かんよりは、其分量の過ぎたる方可きぞかし。膽力の少きよりは多きが可きぞかし。ヘクトルの如く戰場に死するは、華美なるパリスの如く敗走するに勝れるぞや。

逆境耐すべし

予等の享けし苦痛も善く是を用ふれば、將來の訓戒となすを得べし。ゴールドスミスは嘗て其小說に於て赤貧者が、靜かに逆境の痛苦に耐へたる事を記せり。夫れ人の美質は危機突として起るの際に發揮せ

ら、る。此時に當つてや危機痛苦は、内に眠れる勇氣を皷舞し來るなり。是れ豈却つて人の幸福ならずや。

ナポレヲン曰く、人の心痛を堪ゆるの勇は、砲彈雨飛の間に毅立するの勇と異ならずと。ソクラチース云へらく、若し予等の不幸が一團となられたるものにて、誰人も此中より平分に不幸を取らざるべからずとせば、人は概ね滿足して其享くべき分量を取り去らんと。艱難を忌避せず、靜に、忍耐して、勇ましく其運命と格鬪する人は、世界の歎賞を博すべき也。卑屈懦弱の徒には不幸を歎ずるの外一能事なし。彼等は捲土重來の勇なき也。英傑の士は然らず。劍を撫むるや哀訴して他の同情を求めず先づ堅く其創疾を包み悍然として突撃する也。苦痛なくんば利益なし。左れば卿等よ懶惰者が昏睡せる間に深く耕せ、穀類定めて豊穣ならん。

ナポレヲン　ソクラチース　商界の豪傑

卿等の負へる生命は聖浄なる負擔なり、之を注意せよ、之を高めよ、嚴肅に是を保てよ。而して着々として歩め。悲歎の爲めに挫折する勿れ、罪惡の爲めに失敗する勿れ、卿等の目的の達せらるゝまで進み昇るべし。ピーチヨル敎へて曰く、此世界には誰人も機運の爲めに光榮を得しものあらず。若し其人あらば彼の機運とは蓋し夙起硬行、尊貴誠直を維持せし事を云ふなるべしと。

誠直に業務を成すの精神は、種族、階級、境遇を問はざるなり。是れ萬民に通ぜる成功の秘機なり。貧富貴賤は其論ずる所にあらず。正直に商業を爲すは永遠の勝利を得る所以なり。是れ實に世界に渡れる主義なり。是を實行すると否と、一に卿等の心にあるのみ。

ピーチヨルの訓戒　成功の秘機

卿等は僅に一日のみ生活し能ふものにして、前途大業の成すべきものありと信じて、卿等の業を勵むべし。卿等のあらゆる筋肉を活動せよ、

人生は一日の如し

一秒と雖も忽諸に附せざれ。卿等の前路に生ずる蔓草は一々是を拔き去るべし。哲人曰く、要するに人生は唯一日の如し。而して予等は此短時間の中に成し遂げ能ふより遙かに多くの事業の爲めに壓伏されつゝあるなりと。予等の踏み行く人生の途は、又再び繰返すべきよしもなし。時辰の報ずる秒時の音は、洪鐘の如く時の去るをば告ぐるが如く感ぜらるゝにはあらずや。

苛重の課稅

事業は長くして、時の去るは疾く、予等の心臟は豪健なるも、尙消へ行く太皷の音の如く、墳墓に至る悲曲を擧ぐるなり。友よ隣人よ、課稅は實に重きぞかし。予等の收むべきもの獨り政府の課稅に止まらば、是を上納するは甚だ容易なり。然も予等は尙此外に多種の收稅を有する也。其は予等の或ものに取りては如何にも悲しむべきものたらむ。予等は怠惰に由りて二倍、驕慢に由りて三倍、愚劣に由りて四倍の課稅を負ふ。此種の租稅は、予等を安んじ、予等を救はんとて、稅吏の輕減し能はざる所也。是等の苛稅に加ふるに、怠惰より起る惡果は計り知るべからざらんとす。此故に常に活動せよ。勞作は人生を快美ならしめ、心に安息を與ふるなり。詩人歌ふらく、怠れる人は滯水に似たる哉、彼は自ら腐敗する也と。

滯水と怠惰

空虛なる船には多量の貨物を積み得べし。然れども、滿載せる舟には餘地なき也。日毎に實業の時計を施回せよ、之を放下して後るゝが如き事莫れ。落日西山の端に沒せんとするの時、卿等の手にて何等の事業もなされてあらずんば、其日は失はれたるものと云ふべきぞかし。エキシーター僧正論じて曰く、事業を成すの基は、十中の九は頑瑣なる事柄にあつて存す。事業は最高なるものより最小なるものに至るまで、頑瑣に堪ふるの覺悟なくしては成し能はざるものぞ。事を成すに

事業を成す基

面倒を嫌ふ話

熱誠なる人に於て最も尊むべき所は、煩瑣なる事を爲すの勇氣擔けざる點にあるもの也。凡そ如何なる職業にても英語に所謂膽勇を多量に有せすは成就せざるべし。是れ蓋し凡百事業の基にして、百功の肇なり。天下何ものか倦怠に堪ふるの勇氣ほど報酬の多きものあらんやと。

父、其子を携へて街道を行く。見に云つて曰く、見よ、見よ其處に蹄鐵あり、之を拾上げよと。見答へて曰く、否、其は何の用にもならざるべし。面倒を見るにも及ばざる也と。然れども父は靜に是を拾ひ取り、鍛冶師に賣りて三錢を得、苺を購ふの料となしぬ。かくて彼等の歩み行くや、日光は漸く熱く、見漸く疲勞を覺へ來れり。父是を見て密かに一個の苺を落したりしに、見は直に伏して是を拾ひて食ひぬ。かくする事數次にして苺遂に盡くるに至り、父は見を顧みて曰く、扨も一郎よ、御身

最上の靴直し

若し始めて蹄鐵を拾ひ上げたらんには、かく數回苺を拾ふの面倒はなかりしものをと。談俗と雖も眞理は即ち是あり。

「予若し靴直しならば、最上の靴直しとなるは、予の誇る所なるべし」予若し「イカケシ」ならば、古藥鑵を修繕する予の如く巧妙なる「イカケシ」他にあるべからず」。其道に於て最善ならば、巖穴の中に住ふも人之を三顧せん。桃李物言はねども下自ら蹊を爲すとは此意なり。

巨人

予等は孜々として働かざる可からずのなり。巨人の高きも一躍して達せられしにあらず、彼等の伴侶が眠れる夜の間に、兀々として勞苦したるが爲めなり。

失敗なし

常に思想を新たにせよ。他人の思想を熟考して修養せよ。貧困苦痛を恐るゝの心なく、筋骨を勞し腦漿を絞らば、成功は自ら卿等に歸せん。邁往せよ、直進せよ、青年の字典には「失敗」なる文字はなきぞかし。

老境の歎

智者の老境に入りて發する歎聲を聽け、其は機會の少かりしを歎ずるにあらずして、其有せし機會を誤りしを悔ふるにあらん。

實業は幻夢にあらず

實業は幻夢にあらず不斷の力爭なり。故に忍耐を要し、希望を要し、勇氣を要し、功名心を要す。職務に忠實なる精神、決意なくば一事と雖も成らざる也。成功とは好く事を成すに存すと信ずるものは幸福也。

卿等の競爭手

彼の前途には光明あり、確望あり。擊てよ、擊てよ、擊てよ、土をも岩をも碎き擊てよ。卿等最後の一擊が金鑛を打ち碎きて、黃金の鑛塊が露出し來るまで擊ち續けよ。成功は或人に取りては近き處にあらん、或人には深處にあらん。淺深何の問ふ所ぞ。是を得んと欲せば掘り取るの外なきのみ。

世人は皆卿等と均しく望む目的に達せんと逸りつゝあるなり。自ら成功の先登者たらんと欲せば、彼等と角逐するに足る資格を備へざるべからず。經驗と常識は如何なる方面にも理論を編み出したり。卿等競爭手が此理論を實行するを妬む勿れ。是れ以て卿等を敎へ、卿等を鞭ち、卿等を進步せしむるに足らずや。

ウヲルズウルスの歌

ウヲルヅウヲルス歌ふて曰く、

英國の悲歎が發せざりし前、
一畝の田が人を養ふに足りし時、
人は輕き勞働を以て地の幸福なる倉を開き得たり、
生活に要するだけ與へられ、其以上には與へられざりき、
彼の良友は無邪氣と健康にして、
彼の最大の富は、貧財を知らぬ事にてありし、

然も時勢は變移せり、無情なる商業の行列は土地を强奪し、田夫を逐ふ、
と。時勢の變遷に後れては、成功は望むべからず。

心の調和

成功には百般の原因あり。其最たるものを心の調和となす。若し此調和なかつせば如何に機會の寵兒たるも之を利用する能はざるべし。

雄健なる腦力と功名心と、先見とを兼備せば以て人生の勝利者たるを得ん。

胃と肉

因果、需給は宇宙の大法なり。熱は火を作り、火は熱を起す。一として絶對なるなく、一として相對ならざるはなし。時勢が異なれば、人の活動も變せざるを得ず。貧者は其胃を充たさんが爲めに肉を求めんとて歩み、富者は其肉を食はん爲め胃を得ざるべからず。

勤勞直賞

卿等若し正當に物品を賣買し、物品に相當したる價を受け、善く勤め、正直に取り扱ひ、謙讓以て人に接せば、商業の自ら繁昌する、猶夜の日に踵ぐが如くならん。成功は正當なる勤勞の踵に從ひ來る。

失敗の原因

プラットストリート實業失敗の原因を掲げて曰く、不適任、無經驗無資本、無謀の出資、他人の連累奢侈、不注意競爭、不景氣、投機、詐僞是なりと。一八九七年米國實業家の數百八万六千五十六にして、其中一万三千八十三人の失敗者を出したり。之に關しブラッドストリートの作れる統計表は最も興味あり。請ふ次表を見よ。

不適任	一、六一〇	一割三分
無經驗	七三四	一分七厘
資本欠乏	四、一〇八	三割一分七厘
無謀の貸資	四五六	五分三厘
他人失敗の連累	二六六	六分一厘
奢侈	一五九	七厘
事務不注意	三一一	一分一厘
競爭	六八三	二分八厘
不景氣(恐慌)	一一二	二割三分六厘
投機	一〇六	五分一厘

詐僞　一割一分六厘　一、三三八

合計　一三、〇八三

一〇〇〇

大小人の差

是れ商業が危道を以て成就せず、必ず根底を要するを示すものにあらずや。失敗するものは多けれども成功したるものは少なし。以上の表中殘れる百七萬餘の商人あり、彼等は皆成功したるものにあらず。其中の大部は一縷の命脈を繋ぎ、僅に閉店を免がれしものなるを知らざるべからず。成功は容易にあらざる也。

富の歡迎

大人は何が故に大業を成すか、大業なりと思へば也。小人は何故に大事を成さいるか、大事なりと思へば也。是を輕んずれば也。餘りに大を希ふや、其極は大に堪へ能はざるべく、餘りに小に失すれば遂に無に終らん。愼しまざるべからず。

富は偶然の機會にて造られしが如く見ゆる事あるも、其實熟練と先見の產出せる所なり。故に靜坐して其來るを待つなく、直ちに實業に身を投じて、專念其歡心を求めよ。卿等忠實ならば富の來る恐らく案外に速かならん。

浮氣なる僥倖

機會に依頼する莫れ。機會は譬へば、移り氣なる婦女の如し。多心變轉、不定、移動、到底長く其心を得る能はざるべし。ユモルソンの自頼論に曰く、凡べて機會と呼ばるゝものを用ひよ、人概ね之と睹し、其車輪の廻轉するに從ひ、凡べてを得て又凡べてを失ふ、然れども爾是等の利得を不法として抛ち去り、神の宰臣たる原因と結果に就て爲す所あるべし。意志に於て働き且つ求めよ、然らば爾は機運の車輪を曳き止めたるものにして。機運は常に爾に附隨せん。政治上の勝利、地代の騰貴、疾病の平癒、或は舊友の歸來、或は其他外聞の出來事等は、皆爾の精神を昂め、且つ爾をして好き日近づけりとの感あらしめん。其を信ずる勿れ。

智惠の鍵

其は決して善くあり能はざる也。爾に平和を齎らす所のものは唯主義の勝利のみと。

商業と時勢

卿等若し智惠の石を求めんと欲せば、行ひて經驗の鑛山に求めよ。是を得ば切磋琢磨、智惠の鍵を造れ。此鍵を用ふれば世界の凡べての門戸は、開かれざるなし。

商業の進運を熟視し、最新の方法を以て之に處すべし。卿等若し父祖の遺業を因襲するのみにして、創案なく、新業なく、依然數百年前に用ひられたる古物を購ひ、古風なる方法を以て是を賣却しつゝあらば、四邊の推移は自ら卿等の事業を衰頽せしむべし。此時に當り神冥の助くるなきを怒るも何をかなさんや。實業家は最も進歩的ならざるべからず。新案新工夫を考出せざるべからず。卿等の同業者中成功せるものあるか、請ふ其如何にして然るかを研究せよ。

想像力は資本

卿等他の新案新工夫の人に敗らるゝ事あらば、彼等の勝てる所以、一に其無雙の膽勇ある計策、活潑なる想像及び其怜悧なるにある事を考慮せよ。豐富なる想像力の商家に必要なるは、小説家に於けると異ならず。數千の商人は想像力なきが爲めに敗北する也。想像や思想は強大なる資本と云ふべし。

思想の實行者

世界の局面は常に思想の人に由りて變化せられたり。然も想像思考乏しきものと雖も、他人成功の方法を試むるを得べし、決して自ら唱つ事なかれ。舊事物の粹を拔くは、殆んど新事物を發明するに異ならず。思想は其發達するに從つて簡明となるものなり。且つ其は一個人の獨占に歸すべきものにあらず。故に思想には所有者なし、唯是を取つて實行する人あるべきのみ。事業は悉く改良の餘地あり、完全なるものは世界となし、思想に於ても亦然り。商人往々新思想、新方案を研究

愚人の膽語に學ぶべし

操行方正

するの熱心を缺く、是れ個人發達の敵なり、將又世界進歩の罪人なり。世豈絶對の創意なるものあらんや。良好なる事物は皆舊物を改良したるものゝみ。絶對獨立の創意を誇るが如き、愚の極と云ふべし。其昂然として驕れる間に彼の境遇は憐れむべき變化を見ん。

一事に就て餘りに豊富なる智識を有するは、頗る危險なる事時々之れあり、左ればとて一切是を知らざるは一層危嶮なり。若し夫れ自ら其智識を誇るの徒に至つては、自足の殼中に潜める貝の如きか、此徒は自己の思想に奴隷となりて進歩する事はあらざるべし。最賢人は最愚人の膽語を傾聽して貴重なる智識を得と。實に服庸すべきの名語にあらずや。

卿等の名望に汚點あらしめざれ、清く卿等の性格を保て。願くは卿等精神の一呼一吸だも正直ならしめよ。卿等が商業界に身を投じたるより、卿等の擧動は細大となく世の注目を受けつゝあるなり。若し卿等の行爲一點と雖も非ならば、信用失墜し、名譽廢れん。卿等若し誠直信頼すべき性格を有せば、信用は無限ならん。信用は商業の基礎なり。商人も銀行家も卿等の誠直なる限りは、充分信用を置かん。此故に手形は速に是を支拂ふべし、一日を後れば信用を薄弱ならしむるや幾干なるを知らず。

ミラボウの語

ミラボウ云へる事あり。若し正直此世に存せざれば、予等は富を得るの最良方法として是を發明せねばならぬ也と。人生に於て積むべき最淨の財寶は汚點なき名望なり。之れなくんば人は彩色燦爛たる土塊と擇ぶ所あらざるなり。

商店の組織

時流に後れざらんよう勉めよ。最近最良の發明を取り、卿等の事業をして最も人目を惹くものたらしめよ。卿等の商店は最繁華なる地に設け、外觀の壯内部の美を極めよ。加ふるに諸般の設備、洒瀟にして人

を喜ばしむるを圖れ。店員をして顧客に接する甚だ恭謙親切ならしむべし。而して是等の背後には非常の廣告機關を利用すべし。卿等の事務室は整然として一糸亂れざるを要す。蓋し來客は此一事を以て、卿等の秩序あり規律正しき事を想見すべければなり。決して紙片其他の雜具を散置する勿れ。小規摸商業の時代は過ぎ去れり。商人自ら大福帳を控へ、外望を裝はざりしは昔の事となれり。今は是等の保守流の商業時代にはあらざるぞ。

現代は規律、秩序の時代なり。一定の規律を設け、秩序正しく是れと遵はゞ商業繁盛ならん。要務は多かるべし。然れども一事を急がん爲め、他事を半成にして擲たざるべからざる程に忙しき事はなきものなり。若し此の如き事あるか其は罪、規律の欠陷にあり、或は之を遵奉する能はざるにあり。

利益を得んが爲めに激動せられたるものは、往々正非を辨別する能はず、一時の盛興に驅逐せられて、大失態に陷る事あり。是を之れ戒めざるべからず。請ふ、モルトケを見よ。普佛開戰の宣言せらるゝや、人あり走つて是をモルトケに傳ふ。時に深夜なり、將軍將官を引見し、其傳語を聞き終るや靜かに彼れに云つて曰く、我秘密文庫の第何函を開き、其中なる紙片を取り、其に命令せられある通りに帝國諸軍隊に打電すべしと。かく語り終りて彼は躰を轉じて寢ね、翌朝例刻に起床しぬ。此時伯林の市街は鼎の沸くが如くに騒ぎ立ちてあれり。然も將軍平然として朝の散策をなす常に異ならず。友人途に彼を見て曰く、將軍よ、閣下の事を見る何ぞ然く平易なるや。所あらざるか。予は閣下の實に多忙なるべきを想像したりしにと。モルトケ徐ろに答ふらく、左ればなり、今日に於ける我事業は既に前に

成就されたり。今爲すべき事は既に成されてある也と。事に臨みて準備ある此の如くんば、以て乾坤一擲の大商戰を試むるに足らん也。

乾坤一の大商戰

商は牛の涎

實直なる競爭を歡迎して、之と對抗し、之と奮鬪し、之を倒すべし。商は牛の涎の如く又細き糸の如し。細き糸も之を合せば以て巨鐘を繫ぐに足るべし。古諺に之れあり。薄利を以て賣れば速に賣れ行くべし。速に賣るものは多く賣るを得べし。薄利にて多く速かに賣れば利を得るは薄けれども之を積めば大利とはなるなりと。

賣品の確實

卿等の商店にて鬻ぐ物品、一として良好ならざるなくんば、花客は自ら群をなして集り來らん。予等は相對相存なり、商人が市民に依るが如く、市民も商人に依るなり。故に商人正直を旨として賣買せば、市民の足に依る彌々多く信用益々增さん。商海は猶海洋の如し若し卿等の賣買信用を博せざれば、商業の衰微免るべからず。此故に船頭には信任すべき番頭を使用し、見張番には確實なる人物を用ひざる可からず。業務を處理するの智能なかる可からず。業務をして卿等を支配せしめざれ。卿等が深く商業界に足を入るゝに從つて、彌々其上下動亂の甚しきを悟り來るべし。下層にあるは登らんとし、上層にあるは降らざらん事を努め、殆ど際限なし。良く事を取るものは榮へ、惡く業を見るものは衰ふ。春風春水の氷を解くを見よ。急がす逸らざるなり。孜々兀々として天然の理法に從ふのみ。商人の非運に處する又此の如くならざる可からず。

衰の理

商業の脈搏

決して自己を以て滿足する勿れ。ざる處なるやも知る可からず。請ふ卿等の指を伸べて商界の脈搏を診せよ。而して是に應ずるの方案を造れ。

商業も病の人躰に於ける如く不景氣に陷る事あり。此際に當つては、

醫の診察すると均しく、綿密に不振の原因を探れ。若し速に此原因に應ずるの策を施さば商勢又舊に復すべし。卿等商業の醫師たる能力なきか、直ちに專門家をして診察療治せしむるを可とす。

商業の木と園丁

園丁の木を植へ、水を注ぎ、徐ろに雨露日光の惠を受けて爛熳の春を待つ如く、卿等も商業の樹を取り扱ひ、靜に其實るの時を待て、暫く次の一話に傾聽せよ。昔て農夫あり、園中の一木未だ一回だも果實を結びたる事なかりしかば、斧を其根に加へんとしたるに、數度に及びたれども、其妻堅く是を止めて尙暫く寬容せん事を請ひて曰く、此木生長せば少くも葡萄棚の柱ほどにはなるべしと。農夫即ち其請を容れ、周圍に肥料を與へたるに、數週にして花咲き、更に數週にして枝もたわゝに實りぬと。

「扨も予は今機運娘の前髮を握りつゝあり、彼女予の手を逃れ去らば其は我誤なり。貧苦と艱難と戰ひたるものにあらざるよりは、其行路を順境に向はしむるの法を知るものなし」

貧苦と順境

世人をして卿等の商業の日に盛大に赴きつゝあるを確信せしめよ。常に愉快にてあれ、然らずんば悲報傳搬して收拾すべからざるに至らん。機會來らば疾志して進め、躊躇する事なかれ、恐色ある事なかれ。執務時間には嚴格に業務を執れ。公衆との友誼を失はざれ。卿等は政界に身を容れずとも、極めて綿密に其變轉を察せよ。國事の變は卿等の商業に影響する多大なるべければなり。有爲の商人は、有爲の航海者の如く、商業の船を行るに風より眼を放たざる也。

商業盛大の吹聽

政治と商業

卿等の競爭者を待つて寬容なれ、卿等は彼等の長を譏り、短を摘發すべき理由なきにあらずや。世人は正義公直を愛す。敢に寬容なるは必竟自己の信用を高むる所以なり。

商人と健康

商業家は健康と運動を必要とす。是れ心身を養ふて於て極て大切なり。時々戸外に運動せよ。生命は限りあり。況んや過度の勤勞を以て之を縮むるに於てをや。躰軀強健ならずんば、事務を執る能はず、事務執る能はずんば、富作り得べからず。故に一年少くも一回遠く地方に旅して全く事務を閑却し、森や野や川や山やを見て、卿等の心身を復活せよ。精氣自ら中に溢るゝを覺へん。此勢を以て商界に出づ。宛がら竹を破るが如くなるべし。又快ならずや。

記臆力の練磨

ホルブルーク記して曰く、人の記臆は猶良馬の如し。最も貰く是を用ひんとせば、貰く取扱はざるべからず。閑却する勿れ、又過度に用ゆる勿れ。不規則に不秩序に記臆を誤用すれば煩惱、不快の原因となる也。過度に是を働かせば、其は全機關中の主要機關となりて、他の部分の力を減殺せん。疲勞は凡べて記臆力を減殺するものなり。疲勞の時受けし感覺は永久に予等の胸中に止まらず、之を復活する事殆ど出來ざるべし。頭腦は適當に練るのみならず、又善く是を養はざるべからず。

心勞は人を殺す

智識の度進むに從つて躰力消耗するは世間一般の通例なり。心勞は餘りに機能を使用するより發し、遂に躰格を破るに至るなり。ヒーチヨルの曰く、人を殺すは仕事にあらずして、心勞なり。仕事は健全なり。汝如何に人に負擔せしめんとするも、其堪へ能ふ以上には負はしめ能はず。心勞は刃の鎬なり。廻轉、機關を破壞せず、摩擦實に是を破るのみと。

過勞戒むべし

シユレーヂーの曰く、人々利慾の念の強きや、之を充たさんが爲め生命健康を賭せしむ。天然危險線に達せる事を警告するも人是を注意せざるなり。精經機能の過勞より來る死は、頗る隱晦にして人是を注意

米國の惡弊

せず、又は之を知るも其來る甚だ遠かるべきを信ずる也。天然に反せる我慢は暫々之を爲し得べし、然れども最後の期は突如として落下せん。心勞は又時として不消化の原因となる。心臟は薄弱となり、疾病に陷るべき傾向漸く急に、一旦人躰の機關疾病を防ぎ能はざるや怖るべき打撃を蒙るに至る。若し夫れ此人粗惡の煙草を喫し、酒類を用ふれば、彼の機關は彌々虛弱とならん。他人に向つて徐行を說くは容易なり。然るに予等は此敎訓を以て自己の爲にせず、却つて他人の爲にせられたるものと考ふるなり。是等の惡弊は米國に猖獗を極めつゝあり。英、佛、獨其他諸國に於ては、國人の生活遙に安易なり。彼等今日一事を爲し能はずんば、明日之を成す。然も米國商人は概ね一日に成さるべきよりも多くの仕事を成さんとするの弊習あり。彼等は安息する事なくして此弊を繰返しつゝある也と。是れ特に米國人に說くものならんや。日本人の如き短氣にして燥急最も此弊あり。豈危ふからずや。

恐るべき實例

米國の政治家ウインドムは商業會議所にて有名なる演說を爲しつゝ斃れたり、音樂者カッスルマクーは彼の最後の歌を讃歎せる現象の聲を聞きつゝ死せり、名優レメニーは舞臺を退かんとする時弓を手狹みたるまゝにて逝けり、エセル、マルロウも亦幕とならんとする時突然として倒れ又立たざりき、佛國大統領フヱールは大統領室の机に向ひたるまゝにて歿し、土地國有論者ヘンリー、ジョージは其遊說中に於て過激なる演說をなして長逝しぬ。是等は皆過度の勞より發せるものなり。

眞實は大敵物

今日に於て過度の責務を負はんとするが故に明日の事を忘れ、一生を誤つに至る。是豈成功の人の取るべき道ならんや。決して證書に裏書する勿れ、假令其金額は如何に小なりとも。卿等の

財政最も欠乏せる時返金を逼らるべければなり。怠惰者を對手とするものは必ずや貧困に陷らん。此世界は金錢を貸與し、費消するには實に善き世界なり、然れども金錢を請ひ、或は借用し、或は是を造らんには最も悪しき世界なるぞかし。

人若し其支拂能ふ程度を越へて借金すれば、彼は卑屈となりて、遂に退隱せざるべからざらん。有名なる商賈の誤つて他人を信用したるが爲め、累を蒙りて倒れたるもの實に少からず。友人を歡待するは可、然れども其度を過ぐれば、往々にして家産を傾け、一家流離轉敗の禍に逢ふ事あり。卿等若し損耗せざるべからざれば其は自己の損耗を負ふのみにて澤山ならずや。何ものゝ愚者ぞ、他人の負擔を運ばんが爲めに次ひて來るが如く、卿等は他に對して虛僞ならざらんと欲するも能

驅馳の任務を取るは。先づ卿等自身に對して忠實なれ、然らば夜の日

はざる也。

意を卿等の事業にのみ專にせよ。他の方面に於て投機を試むる勿れ。右をも左をも向く事なく、一直線に進むべし。卿等は卿等の事業を解すれども、他の事業を解せざるなり。

人一日にして巨萬の富を造り得べしと說くや、心動き、目暈めき、幻夢を逐ふて零落に至るの徒あり。富は作らるゝには相違なし。然れども巧言、濡手にて粟の攫み得べきを語るの徒は決して卿等の信ずべきものにあらずと知れ。輕卒に資本を投ずる人は、良好なる商人にあらず。卿等の財產の力を知れ、而して是を保存するを勉めよ。卿等若し危險なる事業に陷れりと見ば、之と討死するの愚を學ぶ勿れ。

卿等の資本を以て働け、一錢の微と雖も其正當に卿等に屬せざる以上は之を投す勿れ。蓋し投機的思想は各人の前途を害する毒虫なり。

貯蓄の必要

卿等の資産の許す範圍に於て生活せよ、借金して苦しむ勿れ、是れ自ら船底に孔を穿つに均し。貯蓄は儲金の一部なり、節約せずして富者となるものなきにあらず。然れども其數は少し。節約して貧者となるもの、予等未だ之を見ず。得るに從て散せば、彼はやがて零落の途を急ぐものなり。

フランクリンの貯金論

フランクリンの貯金哲學に聽け、曰く、儲金は人生戰鬪の半部を代表す。金を得るは之を得て後貯蓄するよりも容易なり。米櫃より米を取り出すのみにて是に入るる事なければ、底は直ちに露るべし。汝若し金錢の價を知らんと欲せば、試に行きて是を人に借りよと。

店員の選擇

最良の店員を使屬せよ、彼等と共に働き、又彼等と親密なれ、然れども怪るゝ勿れ。良僕は其位置を知るものなり。各部の部長には高給を與へ、充分其責務を盡さしめよ。

議論より商賣

店員に命ずるに顧客の容貌風采に係らず、恭謙懇切を旨とすべき事を以てすべし。顧客白を指して黑なりと云ふも、決して之を爭ふ勿れ、寧ろ商賣をなし能ふを第一とせよ。卿等は商賣せんが爲めにてはあらざるなら ずや。禮讓の德は稀に見る所、然も是れ卿等の意志如何に由りては容易に行はるべし。顧客不服を唱へば丁寧に其所以を尋ねて是を謝せよ、以て彼等の好意を得るに足らん。

誰人にも卿等の耳を傾けよ、然れども是と語るを謹しめよ、人の叱責は之を受くべし、然れども卿等自身人を裁斷するなかれ。商人として顧客と爭ふほど愚なるはなし、恐らくは彼れ憤然其品を他に求めん。獨立にてあるべし、然れども頑固にてはあるなかれ。請ふ是をも戒よ。

第五章　商業の基礎

資産を與ふるよりも商業の基礎を與へよ

堅志確行の人

何等の機會も、何等の宿命も、何等の危運も堅實なる人の猛烈なる決心を飜し、妨害し、支配する事能はざる也。天賜何ものぞ強大なるは唯意志のみ。此前に來るや晩かれ早かれ萬物悉く平服す。何ものか海に出てんとする河流を堰止し、日の廻轉する軌道を止め能ふ強力あらんや。賢者は悉く其望む所を達し、獨り愚者のみあつて好運に就て空語す。好運なるものとは誰ぞ。其熱心なる目的は決して變ぜず、其人の動作は如何に微なるものと雖も、一大目的に貢獻するを云ふなり。是等堅志確行者に會ひては、死と雖も暫く佇立して待つ事あるべし。

一定の目的

一定の目的を決して身を立て、全心を此一事に集注せよ。成功の秘機此の如きのみ。一生に唯一事を求むるの人は、必ずや其成るを見得べし。然も行く處に從つて百事を求むるの人は、其時ける望の種子より、實にも憐れむべき悲歎を收獲するの外なからん。

一意、一目的、一行　オレリアス

世界は其行く處を知る人の爲めに道を避くるなり。ミラボウ曰く予等若し何處に於ても何事に於ても成功し能はずば、何とて自ら人と呼び能はんやと。何ものも卿等の力には過小なりと思ふ勿れ、又及ぶ能はずと云ふ勿れ。天下能ふべからざる事なし。人々一意あり、一目的あり、一直行あらば何事か成らざらんや。

マルカス、オレリアス帝曰く、爾の困難とする處は人々も能ふべからずと思ふ勿れ。然れども人の成し能ひ、人々適する所は、爾又是を成し得べき事を考へよと。

ケーテ

ケーテ云へあり、予は其希望を明知せる人を尊敬す。世界の過誤は

集注力

カーライル

概ね人明瞭に其目的を解せざるより起ると。二兎を逐ふものは一兎を得ず。若し人其望む所に就て明白なる思想を有せば、是を成就するの方法自ら發見せらるべし。左れば先づ卿等の目的を發見せよ。而して卿等の全生涯を之に投ぜよ、卿等の力を以て何ものにかならん事を努めよ。卿等何事にも成功せずとて、新しき方面に移る勿れ。忍耐なれ、然らば時は其門を開き卿等をして名譽、權勢、利達を得せしめん。水流を堰き止むれば其力加はるが如く、集注力は新しき道を發見するものなり。予等廣く一道を求めば、其廣きに從つて他の路に至る事多かるべく、是と共に新形象、新現象、新思想、新感化、新理想發生せん。大人は概ね一能を有し、一意、一信、一目的の爲めに是を用ひたるのみ。カーライル曰く、最弱の人も一事に其力を集むれば、何事をか成し能ふ。之に反して最硬の人と雖も、其力を分散せば、何事をも成し能はざるべし。

兒童の職業

大人は皆百事百物に就て、皆少許の見聞をなせり。然れども唯一大目的の爲めに生活したるなり。予等は多少理想家なり、理想達し得べく見らるゝや、予等の思想常に轉回す。

商人は概ね其兒の爲めに職業を撰擇するを通例とす。修養學識ある商家の父母は學問を以て其兒の身を立てしめん事を欲し、法律家、醫師、文學者たらしめんと勉め、兒の天性を顧みず。此の如くにして悲しむべき失敗の運命に陷らざるは少し。智者は心を以て働き、愚者は腕力を以て働くべし。天に聳ゆる巨巖の頂は鷲の止るに適し、高き位地は高材逸足の士是を占むべし。人の立身は其性格天賦に由る事なり。左れば兒童に自由を與へ、彼等をして人道の大義を知らしめ、自由に其職業を選ばしめよ。

頭腦と腕力

賢父母は靜に兒童の天性を發見するに勉めて、之に職業を強制せざるなり。社會を見よ、其器にあらず、其適する所にあらず、其性にあらずして勞苦するが故に呻吟懊惱、人生の快樂を享けざるもの如何に多きぞや。此の如くんば到底成功の人たる能はざる也。

如何なる勞作に於ても心は首位にして、手は下位に置かる。顏の爛りたる鐵工や、眞黑き火夫や、日の光を受けざる坑夫が、一年の賃銀は智力を以て働く人の一日の利得にも當らざるは此故なり。之に反して巨館、橋梁、隧道の工事を設計、監督する人等を見よ、彼等の設計の精緻なる、用意の周到なる驚くに堪へたりと雖も、試に自ら煉瓦を積ましめ、斧を取つて木を伐らしめよ、殆んど能はざるなり。此理豈唯勞作に於て之を見るのみならんや。文學史上に於て赫々の光を放つ哲人思想家を見るに、其崇高、偉大なる思想は千載の後を感動せしむるも、其文往々法

根本主義の鼓吹

に外れ、其字往々劃を誤る事あり。然も尙名を竹帛に垂るゝものは、創作の摸擬に勝るが爲めなり。世の父母長者の子弟に敎ふる、最も此理を思はざるべからず。

蓋し商家の子弟に最要なるは、其根本的主義なりとす。故に醇々として是を敎へ、以て將來の危難に堪ふるの意志を强からしむべし。幼年の心神は若木の如し、厚く注意して外物の妨害に打勝つ力あらしめざる可からず。富貴一度失敗するや、再起する能はず、遂に書記、雇人となつて身を終るは、平生の訓練なきが故のみ。父兄は子弟に忍耐、艱苦を學ばしめざるべからず。可愛き子には旅をさせよ。獅子は子を千仞の淵に擲つ。お乳母日傘、偶々兒をして後年失墜の人たらしむるに過ぎずと知らずや。

スマートン

ハマートン記すらく、艱難なき人生は投影なき繪畫に似たり。苦艱の

経験、便宜、堅志

何たるを知らず、又之を諒解する能はざる天然の寵兒は、皆一種魯莽の風を帶ぶ。猶陸國の愚人の大洋の恐るべき經驗を有せず、又之を想像するの頭腦なきが故に、大洋の恐怖を聞ひて是を一笑に附するが如しと。汝暗澹たる威能よ、悲歎の中に麵麭を食ひたる事なきもの、晨を待たん爲め噓唏嗚咽暗黑なる時を送らざりし人は、汝を知らざる也。吁汝一度、其力を揮ふの時、彼等將た如何せんとかするぞ。此故に苦艱は眞友なり、眞師なり。

父母眞に其兒に對する責任を解せば、彼等は必ずや經驗と、硬直と、堅志とを兒等に敎ふるならん。是れ成功の要素にして、一時の愛情に換ふべからざる大切なるものなればなり。世上幾多の不幸兒、艱苦と奮爭する事を敎へられず、優柔無爲の愛育を享く。予等は此不幸兒を憐まざる能はず。然も自由なる敎育は放縦を意味

放縦と自由

するにあらざる也。

兒童が其一時の感興、未熟の判斷に任ずるを看却せば、自ら經驗を缺き理解力乏しく、遂に失敗せん。是れ父母其訓練敎誨を怠るの罪なり。決して兒童を放縦ならしむる勿れ。常に是を監視せよ。

資產ある青年實業家

資產ある青年實業家が、父兄の手を離れて活社會に出るや、游泳術に通ぜず、唯浮木に賴りて海に出るに異ならず。彼れ其資產の浮木を賴るが故に、無謀にも陸を離れて商海の中央に至る、一旦風波起らば彼れは爲す所を知らずして溺るべし。先づ游泳術を敎へて後、是れに資產の浮木を與へよ。術既に會得する所たらば浮木なきも亦妨げず。

臥薪嘗膽せざるべからず

世界の大事は貧苦欠乏の人に由りて成され、安穩逸樂の人の手を借らざりき。苛酷なる必要は事業に取りては無量の刺激なるぞかし。請ふ、青年の胸中に臥薪嘗膽の氣を扶植せよ。然らば後年に於て豐富な

急に積まれし富

功名心なき製糞器

る結果を生じ、老境に至りて悠々其生を樂しむを得ん。此時彼等靜かに壯時を追懷せば、其艱苦、其困難の恩惠にてありしを謝すべけん。兒等よ、路は遼遠なり、遠くして且つ嶮峨たり、野は茫々として、磽确、森は闇黑にして寂寞ならん。然れど兒等よ、搖籠より墳墓に至るまで、一路絨氈の如き幸運を踏み來れるものは、尊貴なる心の訓練をば失ひてあるを思へ。

ゲーテ曰く、急に積まれし富は減少せん、左れど手腕に由りて少量づゝ集められたるものは倍加すべしと。

如何なる職業にもあれ、功名心なきは、起手よりして既に失敗せるなり。何ものをも成さんと欲せざる青年は、無用の製糞器のみ。兒童は其幼時より自己の力に由り、自己の經驗に賴り、且つ他人の經驗を觀察して、事を爲すの風を敎へられざるべからず。彼等に小中學の敎育を與へよ。是に天資其他の便利を加へば、彼等は商界に討ち出るの準備成れりと云ふべし。自由なる敎育は尊ふき、殆んど金錢を以て計量し能はざるなり。小兒が父母の快樂となるも、將た其桎梏となるも、一に敎育の如何に由るものぞ。

敎育の人

實務敎育とは何ぞ

敎育ある人は確信力あり思考力あり、事物を其ある通りに見る。無敎育者は狹隘なる窓より人生を目して、世界は小なりと云ふ。愚者は賢者の語を聽くも其過を改めず、俗人は愚人の語を以て其理屈を辯護す。何ぞ其滑稽なるや。

ショルダン嘗て父兄を戒めて曰く、予は屢々其兒童に實務敎育を授けんと欲する父母に會せり。彼等は實務敎育を以て安易なるものと考ふるなり。即ち少許の書學、少許の器械學、少許の簿記學を修めば、兒童は實務に適するとなす。實務に適する事は、銀行簿記が如何に複雜なる

も貸借の二原理を以て解釋され得べきが如く考へつゝあり。人間の生活は是よりも遙かに眞面目なるを知らずや。成功の實業家たらんとせば完全なる教育を受けざるべからず。教育は唯學校教育に止らず。然れども若し是に止まるとせば、其は學校の罪なり。彼等は眞實業家を造るが如く、其他の方面にも好人物を造らざるべからず。彼等は人生に適すべき人を出さゝるべからず。多數の商人は何故に失敗するか。彼等の如何にして成功すべきかを知らざるが爲めならずや。彼等に智能訓練の人と競爭すべき材力、熟達なきが故ならずや。彼等が商業の法則も引力の大法の如く不變なる事を諒解し能はざるが故ならずや。人の直立するは引力の大法に從ふが故なり。積富を支配する法則に從ふて働かば、人や國家や富まずと云ふ事なし。若し世此種の法則あるか、人は必ず之を知らざるべからず。人の知らざるべか

らざる所は、學校の教へ能ふ所なりと。彼れ又曰く、學校若し此大法の存在を教へば其功や實に大なりと云ふべし。米人の半部は此世界は機運の世界なりと信じ、其半部は自ら痴愚の結果を受くるや、不運の犧牲となれりと信じ、又其半部は自ら幸運の寵兒たりとし、其爲す所如何に係らず、必ず助を得べしと信ず。落ちたる林檎を拾ふ人、道に一錢を拾ふ人、土中に金塊を得る人、時々是あるや、其隣人は林檎を得んが爲めに天を望み、金錢を得んが爲めに道に彷徨ひ、宛かも斯の如くして金錢、林檎を得べしとなす。機運を待ちて富者となれるものなし。カリホルニアの黃金時代は、黃金既に機運に由りて得べからざる時に始りしにあらずや。人規律と科學に由り、機運に由らずして、サンタ、クラヽ谷の黑土に求むるや、其黃金の量はシエラ一帶の地域に於けるよりも多かりしにあらずや。所有の價あるも

エモルソン

のは一として予等是を求むるが故に來るものにあらざるなし。而して何ものを得るにも唯一法あり。即ち生産を支配する法則を發見し、此法則に從つて勞作する事なり。好機の材力ある人に來る偶然ならず。彼は是が準備をなせり、故に彼は好機を待望する權利を有すと云ふべし。早かれ晩かれ、幾多の辛酸を嘗めし後人は是を發見すべし。是れ其之を用ふべき機會を逸したる時にもせよ、成功の鍵を得たるものと云ふべしと。

エモルソン云へるあり、然らば人をして其價を知り、事物を其脚下に踏ましめよ。街衢にあるの人、高樓や、彫刻像を見、其是を造り出すの力なきを思ひて悄然たり。彼は華美なる從者の儼乎として外人に對する如く、王宮、彫刻像、價高き書籍が、汝は誰ぞやと誰何するが如く感ずるなりと。自ら卑下する此の如くんば、大事如何て爲すを得んや。

兒童將來の事業に就て考ふる處あらんと欲せば、先つ其性格を諒解せざるべからず、之を暗んずる宛かも地圖を知るが如くならざるべからず。此の如くして其何を好み、何を嫌ひ、何業に適するかを知り得べし。一見は何事にも忍耐に一見は倦み易し、一見は長者の命を拒み、一見は能く之を遵奉す。仔細に之を點檢せば訓練を與ふるに於て餘師あらん。

兒童を導くに溫言を以てし、强制して其嫌ふ職業に從事せしむる勿れ。彼等をして天性の好む所を捨て、高尙なる職業を執らしむるは曲事なり。是れ唯に兒童の損害のみにして止まんや。兒童の特性は自ら發露すべし。天才は束縛すべからず、雖囚中にあれば何處をか突ち出つ。智能は是を閉塞せんに餘りに强大なり。詩人の歌に聽け。

牢獄を造るは石壁にあらず、

因襲を造るは鐵條にあらず、
靜平無邪氣の人は、
之を以て庶居と思ふべし、

世界が今日の文化に達せんには多年を要したり。其の如く兒童をして其眞我を發達せしめ、以て世界をして彌々高度の文明に上らしめよ。

壯年時代の人

壯年時代の人は短時日の間に、過去幾代の事業に優る偉勳を立つる事あり。彼の革命を見よ。「青年なる亞米利加」が爲したる大業を見よ。其成功は唯米國を利するのみにあらず、世界に民主思想を傳播したるの功如何に偉絕なるよ。

天性と職業

ペーンの曰く、各時各代は凡てこの場合に於て前時代の如く自由に働かざるべからずと、以て理性時代に入れる青年に適用すべし。予等若し予等自身の爲めに働くべくんば、誰か予等の爲めに働くものあらんや。予等若し今に於て働かずんば、何の時か働かんや。

遇れる駿馬

ハマートンの曰く、非常の智能を以て生れたる人は、制御し難き天性によりて智識的生活を取るべく餘儀なくせらるゝは、猶水禽の水中生活を爲すが如くなり。然れども下等動物は人間よりも遙に此便利を享有す。蓋し其目的單純なるが故に是を達する事人よりも完全なるを得るなり。鷲鳥の生活は全然其天能と一致するも、智識ある人は決して其天性と一致したる生活をなす能はず。知慮明達の士參着錯落たる妨害に會して其生活を傷けられたり。予等現代の名士に就き親しく精確に其境遇を知るに從ひ、益々彼等が皆抗爭すべき大困難を有するを見ずんばあらずと。

青年は明晰なる道程と、明晰なる思想と、多量の激勵とを要す。彼の逸れる駿馬を見よ。勝利を得んが爲め奔馳するなり、更に是を鞭撻激勵するは、速度大に加はらん。

功名心の日光

溫言を以て青年の好む所に導け。希望、勇氣、確信を以て其周圍を支へよ。然らば功名心は日光の如く心の窓より注射し來り、青年の天能は鏡亂馥郁として花咲き、世にも美はしき果實を結ばん。硬直、遠大の目的既に定まり、決意動かすべからずんば、百敗を凌ひで、誇然其勝利を祝すべき時來るや必せり。

支那人の機を踏むが如し

信が僞に代り、正が邪に代りて兒童の胸中に藏めらるゝ毎に彼の勢力は加はり、かくて彼等將來の福祉造らるゝなり。將來に對する希望は、將來に對する智識の如何に由るものぞかし。

支那人の敎育は强制的にして然かも無智狹隘なり。彼等の宗敎は主として祖先を崇拜するものにして、其敎ふる處は古人の言行を模すべしと云ふにあり。彼等は模擬を以て最上の道德とせる故、二千年間殆ど同一の文明を有し、美術、學藝、文學皆數百年前のものに異ならず。彼等は外邦の文明を排斥して、自ら中華と稱し倨傲自尊、而して今日の境遇は如何にぞや。世の父兄たるもの其子弟に敎へんとする時、支那人の缺點を襲ふなかれ。

內障眼を切り去る小刀

子弟の職業を選擇せんとする時は、必ず其性格に適するか否かを思へ、經驗は銳利なる小刀の如く人を傷く、然れども其は以て眼を盲ゆべき內障眼を切り去るなり。父母たるもの自ら事業を處理する能はず、然かも子弟に向つて强ひて一定の職業を取らしめんとす。强力は嘗て花を咲かしめ、天才を發達せしめたる事なし。ランコン、ガーフィルドにして其父母の後を踏襲すべく强ひられたらんには、彼等は大統領たるの名譽を荷ひ能はざりしならん。行動の自由は途を開き、此途より

強力の害

して名譽の頂點に達するなり。

兒童を訓練するには理性の力を以てせよ、强力を以てする勿れ。强力

グラッドストーン

社會の將來は母の手にあり

は兒童を獸化し、卑屈にし、性格を賤劣にし、精神を壓抑す。

グラッドストーン云ひけらく、最も大切なるは兒童の中に潜める精神を照らす事なり。兒童の內には世界に於て善事を爲すべき資格、大小に係らず、存するものなり。此は聰慧兒に限らず、尊馨兒に限らず、魯鈍、痴愚の小兒にも亦之れあるなりと。

* * * * * *

母たる人よ、卿等は兒童第一の敎育者なり。社會の將來は擧げて卿等の手にあり。請ふ自然を模範とし洪量、稚懷、懇篤、寬容、兒童を育せよ。其彼等に及ぼす感化實に大なるべし。大人は多く賢母より出づるなり。見よ、慈母の其兒を愛するを。一兒には接吻し、一兒は抱擁し、一兒を膝に上せ、一兒を肩に倚らしむ。其間にも彼等の動作、容貌不服、要求を見聞して、其感情、意志の如何を知らんとは勉ざるなり。

兒童に單純なる眞理を語れ、左らば彼等は一々之を首肯すべし。慈母は神聖なる其唇を以て兒童を敎へざるべからず。兒童は皆獨得の性格を有するものなり。見、從順にして靜平、何等の不滿不服を唱へず、之を叱責、訓練するの要なきの故を以て喜ぶ勿れ。兒若し意地惡しく、惡戲を好み、容易に命を奉せず、制駁し難しとて悲しむを休めよ。幼年時代の喜悅、悲歡は老境に至りて、其地を換ふるも知るべかず。蓋し小兒の柔順なるは身躰の虛弱より發り、其粗豪なるは强健なるより來る事多ければなり。ヘルプスの曰く、世界の大業は多く其幼兒極めて馴致し易かりし人に由りて成されたり。此れ極言と雖も學藝、文學、美術の大家に適用し得べきのみならず、倘官吏、外交家、其他社會百般の事業家に適用して誤らずと。是れ唯半面の理を有するのみ。

凡ての兒童の將來を劃策するに當りては、決して職業の貴賤を心する勿れ。

職業は神聖なり

勤勞は神聖なり。商賣人と云へば賤しきが如し、然も何等の事業を問はず兒の才に從ふは成功の途を拓く所以にして、天の命なり。且つ職業の尊卑は之を成す人の尊卑に依るものぞ、賤劣なる心を以てせば如何なる職業も、凡べて賤しむべからん。職業人心を高下せず。人心職業を高下するを知らずや。御堂の鐘よ、勞作の福音を響き渡らしめよ。愛の神は勞作の人と共にあらんが爲めに天下り玉ひぬ。勞作は神が莉の中に植へ玉ひし薔薇の花なるぞ。天にも完き安息あらん、然れど地上の恵は勞作にてあるを知れ。

シドテー、スミス

シドテー、スミス曰く、天然の命に從ひて身を立てよ、左らば汝は成功せん。若し之に背かば汝は無より惡しき事一万倍ならんと。大法律家たるべき天資も、之を醫師たらしめば庸醫たらん。故に兒童の特性を發揮するは父母の任務なり。工業家たるべき兒童を捉へ、書記として

天然の命

成功せしめん事を望むは、木に縁りて魚を求むるよりも尚不可能なり。

メールの記事

ミレーは書を書かんが爲めに生れたり、シェーキスピーアは戯曲を作らん爲に生れたり。スチブンソンは工業家たらんが爲めに生れたり、ナポレヲンは英傑たらんロツトシルドは富者たらんが爲め生れたりと。此數者をして職業を轉換せしめよ、彼等の名は歴史には殘らず、世界は其光を失ひたらん。天性發揮せしむべからずや。

富の如何に賤業に由つて積まるゝかを見よ。馬車を走らし、水車を廻轉し、機械を運轉して、富を積むものは多きに、法官や、法律家や、醫師や、美術家は、其俊秀卓絶なるも尚憐れむべき報酬を得るに止まれり。實際智識的職業は其收入の點よりすれば甚だ憐れむべし。倫敦メールの記事を見よ。倫敦にて近時十年間に巨富を積みしもの千人に就き、其職業別を爲すに、銀行家商人三十八名、炭坑所有主、鐵工場主、技師百十名、

早晩より起れる人

年齢と事業

金貸業九十三名、製造家百九十三名、酒類醸造家百十九名、新聞社主、印刷業、出版業、新聞賣捌百〇九名、株式仲買八十四名、葡萄酒、酒精商百〇一名、法官、辨護士百一名、內科及び外科醫六十七名なりと。

天は怠惰を好まず、又賤業者を忌まざる也。賤業の中より起つて大政治家となれるもの少からず、リンコンも然りき、ガーフイルドも然りき、太閤も然りき、舜も然りき。最も賤しき生活も尊き事を得べく、最も樞勢ある王侯の生活も最も厭ふべきものなる事あり。

商業の基礎を定むるに當りても、壯年と雖も決して成功し能はざるにあらず。ヂエフワーソンが米國獨立の宣言書を草したるは三十三歳の時なりき、卅五歳にしてナポレヲンは佛蘭西皇帝となれり、ウエブスターは卅六歳の時米國知名の法律家たりき。廿六歳のビットは既に英國の大宰相たりき。エクイテーブル大生命保險會社の創立者ハイドは廿五歳にしてスチウアートは商業を始めぬ。スプレッケル、ロックフエッラー、ワナメーカーの徒亦然らざるなし。

商海の暴風雨

商業世界に出るに豈年齢の制限なるものあらんや。卿等商海に船出して平潤漫瀬にあるの間は可なり、其大海に出て呑天沃日の濤、排山倒海の風、轟壓澎湃たるに臨まば、睛ふ膽落ち、神泣き、彷徨四顧、杷を失ひ、楫を墮し、身を魚鼈の腹中に葬るの勇を鼓して、奪擊突進すべきの時なり。予等の一身は予等の意志に依るものなり。成否、榮枯一に予等の決心にあり。高きを望め、假令失敗すとも卿等の位地は低きを望みしよりも高かるべし。

第六章　廣告の利用

予等は詩歌、音樂美術なくして生活し得べし

予等は眞心なくして生活し、心情なくして生活し得べし
予等は友人なく、又誇負心なくして生存し能はぬなり
日の商業は廣告なくして生存し能はぬなり

大資産は廣告の紀念

大資産は廣告利用の紀念なり。 孰れの國にありても廣告を利用して大成をなしたるもの少からず。 卿等が毎日手に觸るゝ新聞雜誌等の刊行物は、商人が資産を造るべき最要機關なるを知らずや。 新聞は人を造り、其運命を造り、商業の大勢を直寫し、社會の進運を示すなり。

機敏なる商人と廣告

機敏なる商人は廣告の功用を解せざるものなし。 皆一意如何にして廣告を利用すべきかを研究しつゝあるなり。 汝若し社會の知る所たらん事を欲せば、汝自ら知らしめざるべからず。 故に田舍にありても、都會にありても、廣告は資産を造るの初なるぞかし。

知名

象知、聲名は成功の中點なり。 聲名なくんば社會に活動し難く、象の知る所たらずんば、商業機關の運轉もなかゝ〳〵に困難ならん。 象知に加ふるに忍耐、胆勇、執一を以てせよ。 其はやがて百千倍の果を結ぶべし。

廣告は燈火なり

蛾の燈火に集るが如く、顧客は廣告に集る。 商業の機關に廣告の油を注ぎ、勉強の石炭を燒かば車輪は運動し始むべし。 原動力既に活動し始むれば、卿等の機關は轟々の音を發して動くべし。 其後卿等は些少の力を費して大利を博するを得ん。 是れ機械學に於て原動力を得るを以て第一とし、其以後は容易なりとなすに異ならず。

廣告は商業の寒暖計

商業繁榮に、競爭者なきも廣告の必要なしと思ふ勿れ。 若し廣告料を惜まば卿等は新進の商人が新機の工夫を凝らし、卿等を驅逐するの不幸に遭逢するや必せり。 商人が其廣告に冷淡となるに從つて商業も亦冷却せん。 譬へば寒暖計が温度に從ひて高低するに異ならず。

卿等が新聞に廣告するは廣く社會に卿等の商品を知らしめ、顧客を得

廣告せざる愚人

んが爲めなり。此必要を認めざる徒は小暗き街頭に、悲しげなる店を開き、其衰頽の憐れむべき殆んど云ふに堪ゆべからず。彼等は廣告の勢力を解せざるにあらず、廣告を利用して繁昌せる商人を目にせざるにあらず、然れども其古風なる頭腦は是を惡事なるが如く信じ、嘗て自ら新時代に相當すべき商法をなさざる也。エピクテトス曰く、扁屈人の最後こそ面白けれ、彼は驢馬の如く鞭撻せられざるべからず、然れども其時には父兄の如く其苦を執る人を愛せざる可からずと。廣告を忌避する人は此扁屈人たらん事を欲すると何ぞ擇ばんや。

エピクテトス

廣告にて身を起せる人

貧困なる小商賈の廣告の力によりて、商運を開き富豪となれるもの少からず。之に反して豪商と雖も廣告を廢止したるが爲め、家業零落したる例多し。商人は如何なる時にも、如何なる場合にも、其如何なる商品を有するかを衆知せしめざる可からず。然らずんば顧客減少せん。

新聞の勢力

是れ自然の理と云ふべし。

新聞の勢力は猶遊星の力の如く不可思議なり。其は蕾を眠の中より醒まし、夜の中に爛熳たる薔薇の花たらしむ。卿等極力公衆に向つて其商品の功能を說け、彼等をして卿等の顧客たるの利益を悟らしめよ。此の如く力めて止まずんば、商運必ず大ならん。雨垂も石を穿つの習あるを見ずや。請ふ次の一話に聽け。

一言一心の話

左る處に强大なる一の城寨ありけり。敵軍來りて襲ひたるに其武器と頼むは唯一の大砲に過ぎざりき。城内の人相顧みて曰く、一個の大砲にて此城を攻むるとは事可笑しやと、一笑に附し去りたり。然れども砲手は間斷なく外廓の一處を目掛けて擊ち續けぬ。城士は是を見て彌々手を拍つて其愚を嗤へり。然も大砲は毎日一處を狙擊して止む事なく、一周にして其石を粉碎し、一月にして後壁の石を破り、十日に

して外廓の一部を破り、敵軍此間より突進して、遂に城を陷れぬ。商人よ此逸話に倣ひて商業城を攻め立てよ、卿等の用ふべき階子は何ぞ廣告なり。大砲は何ぞ、廣告なり。彼の廣告を無視するの徒は即ち前日城内にありて砲撃の無力を嗤へる愚者なり。商界の捕虜となるは此徒に外ならず。

商業城の攻撃法

廣告は商家の最大要務

廣告とは何等の不可思議にもあらず、其は幻術を以て掩はれず、又暗黒なる幕を以て隱されず。其は實に商家事務の一に過ぎずして、然かも其大切なるものなり。其秘訣は一語にして足る。即ち、直ちに看客の眼を惹くが如く廣告せよ。唯此の如きのみ。

而して後如何なる種族の人に知らせん事を欲するかを定め、其社會に於て最も廣く讀まるゝ新聞紙に廣告せよ。

然れども廣告を以て虛僞を裝ふものと思ふ勿れ。卿等の商品は實際廣告に背くものなる可からず。卿等若し正直を旨とし、實價ある品物を販ぎて怠らざれば顧客の來集する蟻の甘きに就くが如くなるべし。

廣告の精神

サンコン訓戒

一部の商家膨脹史

正直、信實は卿等の訓誡ぞかし。若し一度廣言人を僞らば之を恢復する實に困難にして、爾後卿等の廣告は却つて詐僞の看板と變ぜん、リンコンの曰く、汝は終始一部の人民を欺き得べし、一時人民全躰を欺き得べし、然れども終始全躰の人民を欺かん事出來べかずらと。

新聞雜誌の廣告を見よ。其は一部商家膨脹史なり。始めは半段を取りたる廣告が、漸く一段を取り、又暫くして二段を塡め、三段となり、四段となり、遂には全紙に渡る大廣告となるを見は、其商運の隆盛トすべきなり。

廣告を中止すべからず

廣告は書籍に均し。一回の廣告は書籍の一頁の如し。常に絶好の廣

實際なる廣告家

告を掲ぐべし。書籍の一頁にても價なくば其全躰の品位を落すが如く、一度の廣告にても惡しくば全躰の價値に關するものなり。巧に廣告し、廣告して止まず、勝つまで廣告すべし、功成るの後も尙廣告すべし。半途に於て休戰するは前日の勞を空に歸せしむるものなるぞ。

廣告に客なるは夜業をなして晝は眠り食事を廢せんと欲するに均し。何ものゝ愚か是に及ばんや。此の如き廣告は寧ろなきに若かず。大に廣告料を散ぜよ、絶好の廣告機關を利用せよ。廣告の意匠に最も意を凝らせ。而して常に廣告せよ。其功果必然大ならん。廣告の力を借らずして大商人たらん事は今日の社會にては遂に望むべからざるなり。

廣告術の要訣

又廣告は一種の技藝なる事を忘るゝなかれ。其巧拙は殆ど專門の研究を要するなり。其要素を掲ぐれば、(一)人目を惹く事(二)愉快を以て之を讀ましむる事(三)要點を失はずして簡明なるべき事(四)記憶に止まり易き工夫ある事(五)信用を博する事の五條とす。條項としては是に止まれど實地に應用すれば頗る難き事なり。故に商人は特に專門家をして是が工夫を爲さしむ。日本の如き廣告術未だ進歩せず。從つて其巧拙の感少しと雖も、米國の如き此術大に開け、特に一枚の廣告意匠の爲め數百千金を投ずるもの少からざる也。

注意すべき條項

請ふ次に廣告者の注意すべき條項を掲げん。是れ米國某商家の相傳へて廣告訓となせる處のものに係る。

一競爭者の賣品に就ては假令之が攻撃文なりとも廣告すべからず。

蓋は却つて彼等の爲め一種の廣告を爲すに止むべし。

二、充分圖案趣向の熟したる後に廣告すべし、而して此廣告を間斷なく

揭ぐべし。

三、廣告の目的は其好果を得るにあり、好果若し得べくんば大金を投ずるも決して損耗せざるなり。之に反し假令些少の金額にても結果なくんば、非常の高價を拂ひしに異ならず。

四、滑聲的文章の廣告は人の注意を惹くが如く思はるゝも、其實功は極めて薄きものなるを知れ。

五、趣向、圖案等は時に依りて變化せしめざれば、人の慿を來たす處なしとせず。左ればとて常に是を變ずれば人目に聳へず、此調子を諒能する事最も大切なり。

六、廣告面のあらん限り冗談なる文句を幷ぶるは愚の極なり。要を得るに止めよ。

七、小文字にて長たらしき廣告を爲して得たりとするは大なる心得違ひなり。恐らく當人も之を發見するに苦しまん

八、新聞廣告欄にて、時々「來週に此處に何が現れ來るか、見よ〳〵」など書せるものあり。是れ注意を惹かん趣意なるべけれども、所謂樂屋落にて實際の効力は薄かるべし。寧ろ初より要點を摘んで廣告するに若かず。

九、凡べて廣告は第一行が肝要の處なり。最も意を注ぐべきは此點にあり。

十、商業の不景氣となると共に廣告を廢する勿れ。此は其事業の衰退を自白するに均しく、家運益々萎微すべし。

今は廣告の方法に就て具躰的の例を揭げて之を說明すべき場合にあらず。唯其功用の大なるを說くに止めんとす。唯此に注意せんと欲

するは、今日一金を廣告に投ぜば、明日報酬を得べしと信ずるならん事なり。蒔くに時あり、獲るに時あり。其蒔ける廣告の種子が實るにも自ら時日を要すべし。西洋の諺に曰く、最後の一撃が蹄鐵を造る、其他は是れが準備のみと。廣告者請ふ此語を玩味せよ。

第七章　希望

希望は永遠に人心に湧き出づ

人は常に幸福ならず、左れど常に幸ならんとするなり

家郷を離れて不安なる人は

來るべき生活の中に憩ひ且つ住む

天は其無限の智識を以て人類を惠まんとて希望と稱する高遠なる性質を與へたり。希望は予等の動機なり、感化なり。一人は政治家となつて世界の權勢を握らん事を希ひ、一人は普通の力役者となりて靜平恬淡の生涯を送らん事を欲し、又一人は成功せる實業家となりて世を驚かさん事を望む。予等は希望を動機として生活動するなり。假令位地、富貴常に予等に附隨せざるも、愉快と幸福は即ち常に之れあり。豈樂しからずや。

希望は人の動機

希望の神力

予等は此驚くべき希望の臣隷にして、其不可思議なる力に由つて生息す。希望は予等の思想を高尚にし、予等に喜樂を與へ、撓める時の力となり、悲める時の慰となり、功名心の火を燃やし、恐怖落胆の闇雲を逐ふなり。希望は輝く蠟燭の光の如く予等の前路を照らし且つ愉快ならしむ。夜色彌々暗黒となるに從ひて其光明は彌々赫々となる。

希望は人の生命

予等は清新なる大氣、日光を欲するが如く、希望の力予等を擡げ悠々たる知足の大氣、懊惱煩悶を一掃するを欲す。希望胸に充つれば、予等の

最後には王冠あり

大を希ふの精神盡きず、百敗不撓の勇氣溢る。予等の兒童たるの時虹霓を望み、其脚下に黄金ありとして是を逐ふ。逐及する能はずと雖も豫想の喜樂は其勞を補ふに足るなり。回視すれば、希望の復活力は偉大にして、其理性の光を放つ事、墳墓に至るまで止まざるを見る。實に希望は予等の生命なれ。

此苦惱の世界を彷徨ふ間、悲歎の沼に沈む間、希望は常に予等の心を照らせり。曰く最後の時には王冠頭を飾るべけんと。希望の人心に宿る、實に人をして社會に功業を樹てしめんが爲めなり。希望は人に語るらく、汝健康あり智能あり、過去に於て名を竹帛に垂るべき偉勳を奏せしか、若し然らずば汝は憐れむべく生涯を徒費したるなりと。搖籃より墳墓に至るまで希望は予等の運命を形造り、智識の路を啓へ、幸福と、尊貴と、名譽を約し、且つ予等の耳に私語して曰く、科學の丘を登り儕

輩を壓するは最も容易なるぞや、知名の士となりて名を史上に殘すは容易ぞや、實際卿等の切望を達する事は極めて容易きぞと。かくて予等は苦悶の中にも新しき希望の光に照らされて進むを得るなり。希望は予等をして現在の富貴、幸福に滿足するを許さず彌々進んで富を得、快樂を取らしむ。かくて予等の空しき袋には黄金充滿し、予等の頭は威嚴を備へ、資產は增加するなり。希望は又餓腸を肥やすが如く、心に智惠の食物を與へ、常に新しき望を以て前路の方向を指示するなり。大人の功業皆此の如くにして成されき。足るを知るは一個の道德なり。然れども一轉して自屈と變ず。自屈は百敗の基なり。常に希望を以て前み決して退く事なかれ。左らば卿等の位地自ら高まらん。

希望は時に人を迷はしむる事あり。然も其は心の光なり。失意の時

勇氣を鼓せしむるもの實に希望の力なり。左れば青年子弟よ、成功の頂點に達せんと欲せば常に希望に滿ちよ。暗影卿等の胸を蔽ふの時、悲歎卿等の歩行を妨ぐるの時、疑惑卿等の心を苦しむるの時、前途の光明滅したるの時、請ふ此希望の大松火を振り翳せ。希望を失ふたる人の將來ほど歎ずべきものはなきぞかし。

第八章　自助の詞

自助の歌

最後まで戰へ

請ふ自助卿等の事業を成せ。唯卿等の力に頼れ。大膽硬骨なれ。而して進め。卿等の分を盡し、卿等自助の歌を吟ぜよ。成功は遂に卿等手中のものたらん。

請ふ自助卿等の事業を成せ。他人の輔助を待つ勿れ。勇敢に卿等の背を任げて最後まで奮戰せよ。

悠々たる心

希望と熱誠

煩悶を拂へ

請ふ自助卿等の事業を成せ。年去り、年來る其間晝も夜も努力せよ。卿等の心をして涼しき夏の風の如く常に悠々たらしめよ。

請ふ自助卿等の事業を成せ。艱苦を思ひ煩ふ勿れ。難關來りて仆るゝまのはあるとも、彼等を顧慮する勿れ。卿等の胸に纏はらんとする煩悶を拂ひ去れよ。

請ふ自助卿等の事業を成せ。常に卿等の心をして硬直ならしめよ。惰者の恐怖を嘲り、劣夫の輕侮を嗤へ。絶へざる希望と熱誠を以て將來の歳月の爲めに激勵せよ。

第九章　實業家と家庭

君よ家に止りて老翁の訓言に聽け
他人の竈によりて暖を取らんとする勿れ

我家の紫色せる煙は彼岸の火よりも暖きぞかし
手料理は不躾裁なれども健全なり
外なる佳肴は美味なれども毒を含めり

實業界にあるもの時に知己の意見を求むるを必要とする事あり。然も友人の忠言と雖も大に注意せざるべからず。忠言時に害ある事あり。況んや顧客の勸告をや。試に友人に問ふに某々の事を以てせよ。彼等は概ね卿等の意見を贊成して其適當なるを極言せん。此種の友人は反對の意見を提供して卿等の善意を傷くるを面倒に且つ一得なしと思ふものなり。又一種の友人あり、其智識博學を誇らんが爲め沿々數萬言以て卿等の問題に精答を與ふべし。然れども事局の實際に臨みて最拙なるべきは此徒なり。決して用ふべからざるなり。

左れば他人の意見を糺すべき、必要あらば、誰よりも先づ卿等の信任せる雇人に聞くべし。彼等は卿等の盛運と共に利を博すべきものなり。即ち一意諸般の項目に就きて討究して後答ふべく其意見は是を信用するに足らん。家庭は又最も信頼すべく、公平に、且つ精確に卿等の意見を批評すべし。左れば爐邊の議は其爐邊たるが故に決して退くべきにあらずとす。一詩あり以て訓とするに足る、曰く

君よ、家に止りて老翁の訓言に聽け、
他人の意によりて暖を取らんとする勿れ。
我家の紫色せる煙は、彼等の火よりも暖きぞかし、
手料理は不躾裁なれども健全なり、
外なる佳肴は美味なれども毒を含めり

實業家は妻女の忠告を用ひざるの風あり。是れ甚だ不可なり。蓋し妻の幸不幸、貧富、喜憂、皆夫婦の運命に由りて定まるものなり。故に夫婦の問題は妻女の問題とする所なり。妻女に適當の尊敬を與へよ、其

友人の忠言も當にならず
信任せる雇人
家庭の批評
婦女の言用ひざるは不可

感化に由りて成功するもの少からず。妻女若し毅然として艱難に臨み、夫婿を苦を分ち、誠心其家を處せば其夫婿たるものは立身の上に大援助を受けたるものと云ふべし。

婦女は潜水者

婦女は潜水者なり。予等の天性の深底に沈みて新しき思想の眞珠を得來る。此時此眞珠を見るに予ながら其尊き財寶を内に有したるに驚かるゝなり。婦人の爲めに心底の寶玉を發見して、一念發揮したるもの古來幾千ぞや。

愚の頂上

妻女の忠言を無視するは愚の頂上なり、否殆んど罪惡なり。妻女に向つては一談事業の談話をなさいるものなり、かくては彼等は暗黒の中に葬られしに異ならず、一旦死の手が卿等を奪ひ去るの時、妻女は如何にして事業を處理すべきぞや。卿等は其半身をして半身の事を知らしめざるべからず。利害の打算よりしても、感情の上よりしても是れを必要とはすなり。

兩戰と家庭の平和

かく云へばとて妻女をして毎日夫婿の事業に執掌せしめよと意味するにはあらず。唯卿等の一日の事務を終りたる後、爐を圍んで事業の趨向を語り、且つ兒等を膝下に集めて將來を語れ。卿等如何に事業の大洋に風濤に苦しめらるゝとも、憂は去り、望は來り、悲は逝きて喜は來らん。卿等の辛苦、煩勞も兒童後來の盛榮に資するを思へば新しき勇氣は起るべし。家庭の談笑ほど嬉しきはなし、心々兩々相信ずる時の其目視ほど樂しきはなし、家庭に集る喜樂は美はし、是れ清純なる情感の宿る處なり。

婆女の言より發明する處あり

家庭に於て卿等の思ふ所を告句せよ。卿等恐くは妻女の言よりして大に發明する處あるべし。若し卿等正しく彼女の言を解せば、希望の新しき光、卿等の鎖せる胸を拂ふべく、暗中大飛躍の名案も浮ぶべし。

妻其夫に同情を表するや、其關係は益々親接、卿等失望せる時は其笑ましき美はしき言語心情を以て卿等を慰むべく、卿等落膽せる時は其愛すべき婦女子の德を以て世界と奮鬪するが卿等の特色たる事を敎へ、常に悠々として社會を渡るの心を與へん。實にアルピンクが譬へしごとく、妻は夫なる松の大木に纏へる蔓葛の如し。其は幹を攀ぢ幹を頼りて高きに至るも、疾風土を捲いて起るの時、松をして能く是に堪ふるの力あらしむるなり。

アルピンク

妻女の責任

卿等にして妻に語るに事業の事を以てせよ。彼女の責任を感ずるの念彌々深切なるべし。思へらく、「妾は夫の信任を空しくせず、其意を遂げしめざる可からず。妾は夫の盛榮を樂しむが如く、又其逆境を共に憂苦を分たざる可からず。妾は新經驗新境遇と戰はねばならず。夫の難關加はると共に妾の情は增すべし。妾は勇氣と功名心の冠を以て夫の頭を飾り、富貴利達を求むるの力を夫に與へん」と。かくて彼女は妻女としての威嚴を備へ、能く卿等をして非常の決心と勇氣を以て社會の風波を凌がしめん。請ふ卿等の事業如何に難きも妻女と力を併せて是を切り抜けよ。世界廣しと雖も、家庭の如く親切厚情、柔和親愛滿腔の同情を以て卿等の事業を幇助するものはあらず。

家庭は湖水の如し

故に家庭の平和は實業家成功の一要素なり。最高の名譽心も此裡より來り。強健なる意志も此裡より生ず。家庭は以て深山の湖水に比すべきか、碧たる鏡面、平靜にして一波なし。然れども一度下りて谿に至れば、瞠々百雷の音を發し、前路に當る岩石、樹木皆其破壞し流し去る處となる。實にナイアガラ瀑布の偉大なる力は其源たる湖水にあり。

妙なる婦女の激勵

人、心勞の賠纍に蔽はれて悲しむの時、女子現れて之を四散せしむ。妻が夫を激勵慰籍するの聲は、美妙なる音樂の如し。希望起らざるを得

事業は家庭の力に依る

家庭に秘密なし

ず。膽氣生せざるを得ず。惰夫起たざるを得ず。況んや功名心ある事業家に於てをや

請ふ事業の情況は家庭の秘密たらしむる勿れ。卿等の成功は家庭の力に成れる事を知らしめよ。如何に多くの事業家は家庭をして艱苦を共にせしめざらんと欲するが故に煩悶するよ。彼等は事業に於て苦しみ、家庭に於て苦しむもの也。而して其苦心百端にして失敗は彌々多からん。家庭若し卿等の秘密を明かすに足らずんば、卿等將た如何にして此世に立たんとは欲するか。

卿等は堅く胸に藏めよ、家庭は卿等の根城なる事を。此根城に於ては同情、協心あるのみ。直情恩愛あるのみ。疑惑、嫉妬、秘密、詐僞あるべからず。予等は滔々世上の人、其榮華を妻妾に誇らんと欲して、不測の禍に陷るを憐まざる能はず。是れ豈自ら欺くものにあらずや。抑々又

家庭の根據

彼等に懇情なる所以あらんや。彼等の運命は總べて一なり。今日瀰縫して妻子の喜悅を買ふも、敷台一變すれば世界最醜の境遇に陷る。是れ豈妻子の欲する所ならんや。彼等は寧ろ始より如何なる運命をも共に樂しまんと欲するものを。

大美術家、大政治家、大將軍、大實業家は皆潛心其事業を策劃して友人にだも告げざりき。彼等は造次顚沛事業を思ひ、事業彼れなるか、彼れ事業なるか殆ど區別し難きに至る。かくてこそ大業も成るなれ。請ふ健全なる家庭を根據として卿等の志す大業を成せ。而して家庭を根據とせんには其配偶を謹しまざるべからざる素より云ふまでもなし。配偶の如何は卿等の事業に最大の影響を與ふべきぞかし。

第十章　飲酒と實業家

汝酒よ、汝若し呼ぶべき名を有せずんば、予等をして惡鬼と名けしめよ。

恐るべき惡鬼

實業其他の方面に於て明晰、強健の資質を備へたる人は飲酒、宴樂に耽らざりし人なり。如何に豪健なる精力を酒盃の爲めには消耗せらるゝが常なり。有望なる實業界の好壯年、胸には冲天の功名心を貯へ、操行極めて方正なるも、口、狂水の盃に觸れて止まざれば、遂には世にも悲しむべき破廉恥漢とならん。彼れ酒を蒙むれば動物的情感燃へ、判斷力は鈍り、義務を破り、詐僞不德を恥ぢず、遂に尊貴にあらずして恥辱、富にあらずして貧窶を得るに至る。酒盃底には荒亡死靈が群を爲しつゝあるを見ずや。

禁酒と節酒

酒は心の錆を生ず

酒は意志を弱す

「汝若し酒を用ひざるべからざるか是を用ひよ、然れども過す勿れ。全然禁酒するも、過度に用ふるも共に人を幸福ならしむる所以にあらず」と。然も出來得べくんば禁酒せよ。酒なきが爲め成功せずと云ふものの何れの處にかあらんや。

酒に耽るは百害あつて一利なし。酒は心の錆を生ず。腦を腐らし、筋肉を弱め、骨格を破壞す。人、不正の屈人を發見するや直ちに是を解屈する事を知る。然るも彼等は酒盃を口に觸るゝ毎に、敢をして彼等の腦漿を奪ひ、好運を盜ましめつゝあるを知らず。何ぞ其謬れるや。

多くの有爲なる實業家は此咒はれたる液體を用ひたるが爲め他人の慈善に由つて生活するが如き悲境に陷りぬ。實業家成功の鍵は意志にあり。酒は最も意志を薄弱ならしむ。飲酒家の運命が同一轍に出る怪しむに足らず。彼等今日の喜悦は明日の悲歎たらん、一進一退一

弛一張、かくて彼等は失敗と死亡に至るなり。

強弱、貧富、智愚皆此惡鬼を避くると否とに由りて分る。酒は家庭の破壞者、爐邊團欒の殺戮者なり。一度飲酒の習癖を養ふや、毒虫を身中に宿すに異ならず。之を伐るに從つて生じ、遂に止む期なかるべし。豈恐れざるを得んや。

實業家の大敵

酒は富貴を思はず、又貧困をも賤しまず。秀絶の學者之が爲めに斃れ銳敏なる頭腦も之と戰ふ能はず。酒は竊盜の質あり、詐僞の煽動者なり、賭博漢の精神なり、而して實業家の最大敵なり。其零落の淵に人を沈むるや、傍にあり嘲笑して曰く、人類は何ぞ薄弱此の如きやと。凡そ嗜慾は初めに是を禁ずるは易く、病弊となつて後之を醫するは難し。故に酒は飲まざるを可とす。科學は人の性情體質の遺傳せらるべきを救ふ。飲酒家の子孫は概ね愚劣云ふに堪へず。然らば予等は

後世子孫の爲めを計るも亦酒に耽酒するを許さゝるなり。昔は梁王初めて酒を嘗めて是を美なりとし、後世之が爲めに國を破るものあらんを恐れたり。酒は實に家國の賊なり、宴樂に耽りて國を亡ぼせるもの幾千ぞや。

梁王

記臆すべき話

請ふ先哲の語に聞け「愚者が財寶と分るゝ所以は酒にあり」「酒は畢人の盜なり」「酒の赤き時に是を見る勿れ」「幾月重來せず」

飲酒家の實例

米國富豪の子某二十三歳にして父より巨大の財産を讓られき。是より先き某酒を嗜んで飽く事を知らず、操行殆ど云ふに忍びざりしかば、父は彼の腐敗を歎じて是を放逐し、又相見るを許さゝりしが、其病篤くして將に死に瀕せるの時、漸く彼れを引見し、氣息奄々兒の前非を責め改悛を逼りき。兒頓首慚愧悔悛を約するに至つて、其巨富を讓り渡されぬ。是よりして彼れ酒盃を手に觸れざるもの數週に及び、惡習既に

彼を去れるものゝ如く彼れ自身も亦深く是を喜びつゝありき。然かも後數週にして友人等交々彼の許に集り、初は資産の活用に就て注意を與へつゝありたるが、漸く某を誘ふて宴を張り、置酒して歡樂を取らしむるに至りぬ。彼の嚴格なる誓言も破られたり、彼は再度舊慣に陷りたり。彼の放蕩は又非常の勢を以て始まりたり。金銀を散ずる事土芥を捨つるが如く、變友飲友彼の傍を離れず、巧言令色彼を欺き、彼れ前日の漂泊流浪は偶々今日の盛榮を來たせし所以なるを賞讃し、彼の富は世上の快樂を購ひ盡すも尙餘財あるを說くに至つて極れり。此に於てか某は競馬に賭しモントカルロに出入しぬ。酒肆は諂諛を以て彼を迎へ、料理店は門を開ひて彼を入れ、美女彼れに媚びぬ。一笑に一弗散じ、一語に一弗又散じ、かくて漸く彼の產滅し來りたり。井の涸くときは水の價を知るの時なりと。彼も漸く金錢の貴ぶべきを知り

初めき。然れども惡友四邊より彼を嘲つて曰く、貴君眞友天下に滿つ。決して貧を告ぐるの時あらざるべし、何をか恐れ、何をか悔ひんと。かくて彼の財を散ずる事尙止まず、遂に身に一弗の貯蓄なきに至り、眼を張つて救助者を求むれども、救助者は一人も來らず。前日の友人總べて彼より去り、獨り貧窶の神が其勝利を誇るを見しのみ。

吁汝酒よ、汝若し呼ぶべき名を有せずんば、請ふ予等をして惡鬼と名けしめよ。

第十一章　雇人立身の道

才幹を發揮せよ、然れども自負する勿れ、

世界の廣き戰場に於て、黙々他の逐ふ處となる家畜の如くある勿れ、奮戰の英雄たれ。雇人たるものよ、常に好情を以て人

に對せよ。是れ立身の始をなすものなればなり。雇主に對し壓縮したる一事を以て放逐せらるゝもの少からず。雇人に取りては好情は甚だ大切なるものにして名譽、富貴、權勢の位地に達する秘機一に此に存すと云ふも妨げず。

エモルソンの立身の秘訣

叩頭、微笑、溫言や其價は小にして、報酬は大なり。溫言唇頭より發すれば、油の波濤を靜むるが如く、人の情を和ぐるぞかし。エモルソンの曰く、兒童に禮容應對の術を教へよ、彼は至る處に貴富裕を得べし。彼は是を求め所有せんと欲せざるも、貴富裕却つて彼の來り取らん事を願ふなりと。

請ふ丁僮より富貴の位地に攀援したる徑路を見よ。好情と紳士らしきと、快恬なるが爲めならざるは少なし。和順なれ、狎熟なる勿れ。快暢なれ、挑怒的なる勿れ。能く敎を奉じ、常に實直にして言語を謹しむべし。履行する能はざる約束をなす勿れ。若し又雇主の專業を改良すべき方法を知らば、直に是を告げよ。然れども小賢しくある勿れ。然らずんば却つて禍を招かん。

進取的ならざる可からず

卿等進境を欲せず、安然として其下位に甘んぜんとするか、是れ小成を希ふものなり。自己の利益を計るは世界の通則なり。商界は最も適種生存の法行はるゝ所なり。卿等雇人として年々歲々同一地位にあり、營々其業に安んずるか、卿等は殆ど自動機械に異ならざるぞや。卿等他人の爲めに用ひらるゝか、其業務を執る宛も卿等自身の事業の如くせよ。決して是を等閑に附し、成るべく勞を惜しむ事なく、全力を盡して努めよ。是れ雇主をして卿等を尊重せしむる所以なり。若し彼れ卿等の力を待たずしては、事業の成らざるを見ば、自ら卿等の位置を高めざらんと欲するも得ざるべし。

自他の區別を設けざる勉強

エリラット

客に對するの法

其一歩をも忽にせざるこそ成功の秘訣なれ決して雇人の事務を輕侮する勿れ。雇人として適材ならず。況んや大事業に衝るに於てをや。ショーシ、エリラット曰く、「予は懶慢に釘を撃ちたるものには一錢だも與へざるべし、蓋は是にて不足あるべからざればなり」と。常に忠實、勉强、精勵以て雇主の賞讃認識を得よ。嚴密に卿等の事務に當れ、寸時も手を懷にして、停立する勿れ。全力を傾注して働き、笑顔を以て儕輩を迎へ、且つ彼等を鼓舞すべし。彼等昇進せば之を祝せよ。寛容、雅懷を養ひ、狹量、區々の事を爭ふを休めよ。是れ卿等をして商業機關の原動力たらしめ、商會の閣議に列せしむべき所以の方法なり。

賣手は商品の大小に由りて品質を變ずべからず。顧客に禮を失せざらん事を勉めよ。時々顧客の爲め自己の所思を吐くも妨げずと雖も、彼をして必ず卿等の意志に從はしむるを主意とする勿れ。又好言を

勘違ひの了見は禁物ぞ

以て顧客を喜ばしむべし。濫褸を纏へるものと雖も富者と均しく對遇せよ。富者より受けたる一圓は、貧者より受けし一圓に對して憂劣なきを思へ。

雇人となりては着實に其業務を掌りて昇給せん事を心掛けよ。若し自己なくんば業務擧らざるべしと思ひ、心を動かす事勿れ。如何にしても免黜すべからざる人は甚だ少きものぞかし。內閣の大臣とて隨分放逐せられたる例も少からぬを思へ。

業務の苛重なるを思ふ勿れ、又薄給なるを歎ずべからず。卿等の功名心を撲滅し、昇登の途を傷くるは實に是等の思想なればなり。機會の到來せざるを喞つ事なく、着々として予等か見來りし成功の道程を歩め。或ものは友人なく金錢なく、社會の下層に立てり、彼等の運命は何ぞ辛酸なる。然も彼等の目的にして堅固ならば彼等は身を起し、天よ

トツア

りマナの降りし如く、密乳彼の足下に落ち來らん。米人ドッチ嘗て曰く、若し米國富豪傳を著さば其四分の三は比較的小身より起りて現今の地位に達せるを見るべしと。

得意ひの甚しきもの

雇人智識材幹あるや雇主の認識を逼るの習あり。是れ僻事と云ふべし。雇主の地位を與ふるは、其適否如何に存するを知らざるべからず。假令雇主卿等を奬勵する事少きも、毫も不平なる勿れ、又昇給を強請し、肯かれずんば辭せんとするが如き事あるべからず。暫く予等の一話に耳を借せ。

驕慢自ら誤れる書記

左る處に一人の書記長を務むるものありけり。彼は丁儀より身を起せるものにして、社長の覺も甚だ愛度きものなりしが、一日社長に云つて曰く、請ふ予を昇給せよと、強請して措かず、其請遂に容れられき。後暫にして又社長に云つて曰く、請ふ予を昇給せしめよと。然も社長は彼は相當の給料を受くると信じ且つ事業聊か不活潑にして會計餘裕なかりしかば、好人物の社長も止むなく之を絶拒すらく、予は卿には相當の給料を支給しつゝありと信ずるなれんとや。書記長儼乎として答へて、曰く、然り予は今貴下に取りては實に無二の必要なる人物なり、予は貴下の事業には一として通ぜざるなし。眞率に云へば予若し辭職せば、予は此事業も立ち行く能はずと信ずるなりと。社長莞爾として曰く、然るか、予は寧ろ辭職せば卿か糊口に窮せん事を思ふなりと。書記長は繰返すらく、然らば貴下は予を用ひずして事業立ち行くべしと信ぜらるゝやなるかと。此に至つて社長は、幾度か煙草を燻らして後徐ろに告げて曰く、ヨシ、然らば予は寧ろ卿の辭職して糊口を失ふ方宜しかるべしと考ふるなりと。

辭職せば窮すべきぞがし

第十二章　自助の人

天は自から助くる人を助く

青年子弟請ふ以下掲ぐる處の人々が如何にして成功したるかを見よ。貧賤の人は是に由つて奮發興起するを得べく、富豪の子弟は富貴も案外頼むに足らざる事を知るを得ん。蓋し立身の基は卿等自身にあり、唯卿等自身にあり。自修自助以て他年の成功を期せよ。

（一）古河市兵衛

日本の銅山王古河市兵衛は京都岡崎在豆腐屋より身を起せるなり。彼れ幼よりして根氣あり、負けじ根性あり、敢行邁往の氣象あり。一日豆腐を賣らんとして途に輿駕に衝り、肩にせる豆腐を碎き去られぬ。彼れ輿丁を捉へて大に其賠償を要求したりと雖も、却つて他の叱責惡罵を蒙むれるのみ。彼れ思へらく是れ我貧賤なるを以てなり。ヨシ左らば富貴を極めて此恥辱を雪がざるべからずと。是よりして一念發起、毎日鞍馬毘沙門に祈願を籠めぬ。是れ彼が出世の端緒にてありしなり。

其後繼母の兄木村利助の盛岡にあるを頼りて、其許に至る。利助は金貸を業となせるものなり。市兵衛其爲めに時々談判の衝に當る。其の手硬きものと見るや彼れ三日三夜飯をも食はずして居催促に及び、或は道路氣候の險惡なるをも厭はずして奔走す、其根氣忍耐到底尋常人にあらず。市兵衛の伎倆漸く人の知る所なりたり。此に於て盛岡鴻ノ池支店の手代に擧げられ、其閉店するに及んで、利助の恩人小野組の番頭古河某に養はれて子となる。

養父の逝くや彼れ又小野組の番頭として益々信任あり、專ら生糸の買

入れを擔當したりしが、彼の先見なる早くも横濱に於て直接外商と取引を開かん事を主張したりしが、店員恐れて彼の言を容れず。即ち獨り自ら外商を對手として利益を博しめ。當時攘夷論喧しくして人心洶々たり。此際に當つて悍然外商と取引す、彼の膽氣先見ある此の如く。彼れが銅山王となり、齢古稀、尚進んで止まざるもの偶然にあらずと云ふべし。

外商と取引す

成功の始

銅山業

彼れは又外人を雇聘して製糸場を築地に設け、明治五年歐洲蠶紙の不作を看取するや、率先して蠶卵紙を買占めて四十萬圓の巨利を博する等、其機を見る神の如く、常に時勢に先んじて事を爲せり。

小野組の解散と共に彼は獨立の人となれり。彼れ越後の草倉銅山に着手し後年銅山業の基礎を立て、明治十年には大膽にも前途の見込覺束なき足尾銅山を買收し、日夜苦心經營したりしが、後五年にして鷹の巢の鑛脈に達し、爾後又二年にして貫脈に掘當て、古河銅山の盛運を開きぬ。

足尾銅山

是よりして後に於ける彼れの進歩は實に著しかりき。今や彼が有する鑛區六十一ケ所一千五百萬坪、二萬の人を使役して巨然たる實業界の覇王となれり。

彼の丁髷

進歩的の人

彼れ前年まで丁髷を載せて是を斷たず、曰く、是れ往年を思ふて徒に惰を戒むるに足ると。彼れと接したるもの其一個保守的老翁なるを見ると雖も、彼れや實に進歩的實業家に保守的化裝を施せるものなり。彼れ膽氣あり意一度決するや悍然として進むを知るのみ加ふるに先見あり豪快にして能く人を見る。其日常の生活に於ては保守なりと雖も其事務を見業を起す寸毫時勢に後れざらん事を期せり。先に鑛毒問題起り除害工事を必要とするや、百五十萬の巨額を要するに係ら

ず、直ちに快諾して、之に着手するに至つては、彼が事理に通ずるの明あるを證す。

勢力を集注

彼れ又勢力集注の成功に欠くべからざるを知れり。豪富彼れの如くにして銅山以外彼は何ものにも手を出さゞるなり。カーライル曰く、天才とは勢力の集注なりと。市兵衛翁の如き實に實業界の天才と云ふべし。我等は翁の膽勇、剛毅、不屈、一向專念にして進取的なるに學ばざるへからず。

他年の雜貨王

（二）　アレキサンダー、チー、スチユアルト

アレキサンダー、チー、スチユアルトが紐育に入りしは、彼が年齢僅に十六歳の時。他年雜貨商王となりて數百萬金を有すべき身も、當時懷中僅々數錢ありしのみ。初め雜貨商店に入らんと欲して成らざるや、其中學課程を經たるを利用して先づ小學教員となり、勤儉勉勵、少き其俸給の中より漸く小雜貨店を開くべき資金を蓄へ得たり。素より小資金を有するのみ。書記も、店番も、賣子も一切自らせざるべからず。然も彼の勤勉に倦まず、確實正直を旨として營業するや、商運漸く熟し、六ケ年にして大に其規摸を擴張するに至れり。

如何にして成功したるか

スチユアート思ひけらく、雜貨にて最も良き顧客は婦人なり。彼等をして客たらしめんには瀟洒たる店員を使用するを策とすと。此策、圖に當りて彼の店頭には婦人常に群を爲し、彼れ又其顧客の中最も華麗なる婦人に請ふに時々車を彼の店前に止めて縱覽せん事を以てしぬ。是は全く他の客の注意を惹くが爲めにしたる計略なりし也。彼は其商業に術策を弄する此度に達せりと雖も、其商品に就ては專ら確實を旨とし、店員の客を偽らん事を恐れて止まざりき。かくて一方には盛んに廣告を利用して、世の注意を惹きし

かば、業務日に盛大にして數年にして彼の雜貨店は世界最大且つ最良のものとは成れり。彼れの死に由りて米國は最も成功せる實業家の一人を失へり。

(三)　ジョン、ワナメーカー

スチウアート死して後ヒルントン、ヒウス商會其業を繼げるも、却々に其規模を維持する能はずして閉店したりしが、爾後數閉月に及ぶも誰一人として是を買取るものなかりき。時にジョン、ワナメーカーあり、熟慮の後是を受け續ぐに至れり。彼がフライデルフィアより紐育に入り來るや、競爭者は四邊に起りて彼の事業を妨害したり。嘗てはさしもに洪大なりしスチウアートの雜貨店も一度衰亡の徴を現しては是を恢復せんは非常の難事にてありける。然もワナメーカーは毫末是に屈せず、勵精其業に當り數月にして舊觀に復しぬ。此一事以て商業の非運如何に甚しきも、決意熱心を有せば挽回するの難きにあらざるを證するに足るべきなり。

膽勇の產兒

ジョン、ワナメーカーは決して好運の寵兒として、身を起せしにあらず。彼も亦膽勇、決意の產兒なり。彼れ後年の成功一に是れに因る。年十五歲甫めて印刷所に入る。受くる所一週僅に一弗五十仙、然も彼は克へ其業務を見て撓まざりき。後ち轉じて某呉服店に入り、其快活なる風采、勵精なる働とを以て信用を博したりしが、更に基督青年會の書記となつて年額千弗を受くるの身となりしが、此間の貯蓄は漸く積み、知友の資を合し、四千弗の資本を得るに至り協同して實業界に入れり。

新規なる開店

一八七七年其フィラデルフィアの衣服雜貨店を開ひて盛んに縱覽を勸請し、商品は精確を旨とし、若し顧客不滿ならば直ちに是を交換又は買戻すの約を立て、流行に後れず、顧客の便利を計りたりしかば、其商法

廣告術

は全く舊慣を墨守する老舗と選を異にしたり。

彼は又廣告に於て最も妙を得たり。一朝フイラデルフイヤの市民は全市街を擧りてW、Bの符合の貼附せられたるを見たり。彼等は此は何事ぞ、何者の所業ぞと評判區々たる處に、第二の貼紙は又前と同じく至る處に張られたり、曰く、ワナメーカー及ブラウン合同商會はオークホールにて呉服店を開業せりと。彼の名は一時に人の知る處となれり。其廣告の巧妙なる此の如し。

彼の趣辭

其他或は壁上に廣告し、或は風船を打ち揚げ、或は奇躰なる馬車の行列を爲して廣告紙を撒布し、又新聞には絶えず壯觀なる廣告を出したり。其趣向の妙にして、思ひ付きの意想外なる、讀者は小說を待つ如く、今日は如何なる事やするとてワナメーカーの廣告を待ち掛くるに至りぬ。彼の紐育及びフィラデルフィヤの商舖には「勤勉」「誠直」「信用」「忍耐」「勇氣」「細心」等の文字を記せり。彼は實に是等の說に由りて其豪富を致せるものと云ふべきあり。

常道を踏みたる銀行王

(四)　安田善次郎

數年の後日本金融界の覇權を握るものは、安田ならん、是れ金融界にある人が發するの語なり。安田の起る實に常道を踏みしものなり。投機せるにあらず、危險を冒せるにあらず、膽氣を以てしたるにあらず。彼れの生涯に於ては波瀾色彩頗る乏しきなり。彼は唯自然の經路を踏み、孜々兀々として倦まず、善實勤勉、寸々尺々を進んで今日の域に躋したるなり。松本重太郎、大倉の徒と其性行に於て、成功の方法に於て全然異なれり。是れ彼の以て傳ふべき一の理由なり。

安田の成功は常道を踏みて今日に至るものなりと聞くものは、然らば彼は始めより資本を有したるにあらざるかと疑はん。然らず、彼が立

一兩の資本

身の始は僅かに一兩の黄金に過ざりしなり。請ふ簡略に彼の經路を貯らしめよ。

安政元年九月善次郎は一兩の金を懐にして越中富山を出でゝ東都に入る。玩具商に雇はれて行商するもの三年、轉じて兩替店に入り二年にして經節商に往く。かくて數年の貯蓄金十五兩を基本として經節海苦等の店を開き、兩替を兼業し、刻苦節儉、其塵積つて山と爲るの格言を守りし程に、一年間の利益二百兩に上り、事業漸く擴張し來れり。

經節の小商人

漸く順境に向ふ

廿八歳にして本兩替町世話役に擧げられ、兩替業も亦日に盛んになりぬ。此時よりして彼れは日々四、十、八、文宛を貯へぬ。是れ他年の巨額を築くの資金とならんとは、貯蓄の力も大ならずや。此頃幕府古金の引換方を兩替商に命じたりしが、人々不安の念を懐ひて是に應ずるものなし。此に於てか安田獨力之に任じ、其より得る處數萬兩に上りぬ。

安田銀行起る

かゝりし程に安田の資産は日々積み月に增して、信用厚くなりしかば、明治三年仙臺藩の會計用をなし、同五年築地商法會社肝煎となり、七年司法省の爲替方となり、八年栃木縣爲替方を兼ね、九年第三國立銀行を創立しぬ。時に年三十九歳、十年には東京商法會議所議員に選まれ、十一年には第四十一銀行を起し、十二年東京府會議員となり、遂に十三年一月安田銀行を立てぬ。其資本金廿萬圓なりき。十五年日本銀行創立委員となり次ひで理事となり明治廿一年に至り安田銀行を增資して百萬圓となしぬ。何ぞ彼の經歴の坦々たるや。然れども是れ彼が最も得意の壇場なり。試に彼の施設の一二を擧げて其積富の由つて來る所を覗はんか。

百萬圓の安田銀行

單厚社

明治十三年安田銀行內に單、厚、社を設く、其法一ケ月金壹圓を入金し、利子を七歩二厘とし、二十ケ年の後に一口五百三十三圓餘となして是を

拂ひ渡すと云ふ一種の積立金法なり。此法一度出るや一閲月ならずして早くも千口の應募者を得ぬ。

共濟五百名社

同年彼れ又同志と共に奢侈の風を嘆じ、之を節約して子孫の計を爲すべしと、共濟五百名社を組織す。即ち同志者五百名を募り、一名五圓を醵金し、之を資本となして、同志者中死亡者あるや、別に又一名二圓を募り、千圓の金を遺族に與へんと云ふにあり。此法又廣く世上の賛成を得ぬ。

貯蓄か根本

安田は最も貯蓄の妙用を解せり。零碎の資金を積まば以て有爲の事業を起すに足る事を信ぜり。此故に彼れの設くる所の法皆此道理に出でたり。明治十年の頃秩祿公債相場下落して士族頗る窮するものあるや公債抵當貸附年賦返濟の法を設け、同公債を資本として、事業を營まんとするものあるや、額面の四割減を以て其資金を貸與し、其利子は政府下渡しの公債利子を以て是に當て、かくて十六年の終に至れば一金を出さずして公債は所有者に還るの制にして、頗る士族の喜ぶ所となれり。

積塵爲山の格言

彼れ常に部下に敎ふるに節約の德を以てし、奢侈を禁じ、商人の立身常道にあり、危道の取るべからざるを諭して止まず。彼の成功亦一に是れに由る。往年一小鰹節商たるの日、彼が掲げし積塵爲山は實に今日の安田家を造り出せしなり。

（五）ヘンリー、ビー、ハイド

エクイテーブル保險會社

エクイテーブル生命保險會社は斯業に於て世界第一と云ふべきものなり。其前社長をヘンリー、ビー、ハイドと云ふ。又膽氣あり、決意あり、想像豐富にして劃策に長じ、且つ實行の能力を備へたり。彼は一八三四年を以て生る。其始めて紐育に至りしは一八五〇年、彼が十六歳の

時なりし。彼れ資産あるに非ず。勢力ある知友あるにあらず。一八五二年漸くミウチユアル生命保險會社の書記となるを得、漸進して出納方となりき、時に年廿三、深く保險事業の有望なるを見るや、其創造的頭腦は早くも新會社を起すの利を認め得たり。此に於てかミウチユアル保險會社長ウィンストンを見て語つて曰く、予は生命保險事業には新規なる方法に從ひて新たに一會社を起すの餘地ありと信ず、予は千思萬考の後自ら是を設立せんとするの意を決したり。依つて予は自今當會社を辭して新會社創立に盡力せんと。

かくて數多の資本家を勸誘し一八五九年を以てエクイテーブル生命保險會社を組織しぬ。廿五歲の壯年にして此大業を起す。其意氣又豪ならずや。

此一壯年の創立せるエクイテーブル生命保險會社は今日に於て世界

第一の位地にあり。ハイドが受けし俸給年額十萬弗にして米國大統領の俸給に二倍せり。然も是れ決して多額と云ふべからず。ハイドの先見あり、事務總攬の能あり、能く時勢の要求を解せり。彼は錯綜せる事實を判斷するに苦しまざりき。彼は保險業を擴張するに機を失せざりき。且つ勵精にして終始倦怠の氣なし。會社の盛大は一に彼の力に依れり。彼が一八九九年五月を以て、逝くや、彼の資產は數百萬に達せり。彼や實に先見、堅志の子と云ふべきなり。

（六）　澁澤榮一

實業界に於て個人的勢力の最大なるものを求むるに、澁澤榮一の右に出づるもの一人もあらず。彼が關係せる重なる會社の數を列記するも、尙本紙の二頁を費やさゝるべからず。即ち第一銀行頭取を始めとして、王子製紙會社、東京瓦斯會社、東京煉瓦製造會社、札幌麥酒會社、東京

人造肥料會社、大坂紡績會社、北海道炭礦鐵道會社、門司築港會社等殆んど之を擧ぐるに倦まざる能はず。

個人的信用の人

彼れ實業家として頗る識見あり、人と爲り温健着實、能く時務を會す、所謂元老諸公に會して遜色なきもの彼の如きものなし。其嘗て大藏大臣の候補者に推薦せられたる素より彼れの個人的性格の然らしむる處と云はざるべからず。彼れが實業界に盡したる功勞の大なるは、其岩崎三井等と共に男爵に叙せられたるにても是を知るを得べし。若し其資産を以てすれば、彼は遙かに三菱、三井の下にあり、然かも尚彼等と伍して優色あるを見ては、實業界の成功が必ずしも富の分量にのみ依るものにあらざる事を知るべし。

彼れの出身は又大に古河、今村、安田等と異なれり。彼は武藏國榛原郡血洗島村豪家の家に生れ、廿三四歲の頃に至るまで家業を營みしが、時しも維新に際し天下洶洶、志士論客雲の如く所在に起れり。偶々中井弘等澁澤の鄉里に到り、盛んに慷慨激烈の論を唱へて、澁澤等を動かしめ。彼れ思へらく是れ志士起つべきの時なり、焉んぞ僻土に蟄伏して一生を終るべけんやと、產を讓つて江戶に出づ、彼れ時に廿四歲。

志士的時代

彼れ江戶に上りて後雄心滿腹禁ずる能はず密かに同志を糾合して勤王の師を起し、伊香保榛名の兩山を根據として、高崎城を襲ひ、長驅して横濱に出でんと議す。偶々人あり來つて時機の不可を說くに至り、奮つて京都に行き、知人を介して一橋慶喜に見へ、其奥口番となり、頗る信任あり。

慶喜將軍となるに及び、弟清水民部大輔をして佛國に留學せしむ。

佛國行

澁澤又之に隨行す。幾干もなくして、世運は變じて維新の革命成れりとの報あり、明治元年民部大輔と共に歸國しぬ。

官途に就く

實業家となる

一部の實業發達史

彼の歸國するや慶喜の信任愈々厚く、靜岡に移りて力を殖産興業に盡しぬ。偶々太政官札發行配賦の事あるや、澁澤は所々是を運轉して理財の能を發揮したり。政府是を以て彼を招ひて大藏少丞に任じ、更に大丞に進む。彼れが貨幣制度の改制、公債發行、稅制制定、豫算編製等に力ありしは人の能く知る所なり。後議合はずして大藏大輔井上馨と共に野に下る。

此以後彼れは實業家として世に立たん事を期し、王子製紙會社を起し、尋ひて第一國立銀行の頭取となり、東京商法會議所を肇め、銀行集會所を設け、商法講習所を立てぬ。其他日本銀行の設立、手形交換所の創立、東京海上保險會社、共同運輸會社、東京商工會等の發起等、現今の實業界を益すに大功あり。若し一々是等の事實を叙せば日本實業發達史を編するに均しからん。

石油大王

我等は彼が官尊民卑熱の最中にありて、卓勵風發、商工家の爲めに萬丈の氣焔を添へ、日本をして實業の勢力を認識せしめたるの功勞を認めざる能はず。彼の如きは實に時勢の進運を解せるものと云ふべし。時勢を知るは實業家の要務と云はざる可からず。後に身を立つるものは大に此點に留意するを要するなり。

（七）ジョン、ヂー、ロックフェッラー

スタンダード石油會社の創立者ジョン、ヂー、ロックフェッラーも亦貧賤より身を起して豪富を積みたるものなり。彼は紐育州ヲスウエゴー寒村の小農の家に生る。幼よりして恪勤、其小學に在るや耕作牧畜に從事して日に幾歩を貯へ、較々長じて中學に入り、漸〻實業に志すに至りぬ。彼が最初に起したるをロックフェッラー、ヒウイット商會となす。其機敏、先見の明あるは此時よりして既に儕輩の推重する處た

不可能事なし

りき。

彼れ常に曰く、世に不可能なる文字ある事なしと。彼れ積富を唯一の目的となし、是を果さんが爲に精勵刹那も止まず。彼の機會を捕捉するに敏なるや、石油井の發見を聞きて直ちに舊業を廢して資を投じてロックフエツラー、アンドリウス石油製造所を立てたり。數年にして事業着々成り、やがてフラグラーなるもの大資本を投じて、ロックフエツラー等と事を共にするに至りしが、一八七〇年に及びては遂にスタンダード石油會社を立て資本金額百萬弗と注せられたり。爾後該會社は盛んに石油會社を買收し、彌々其業を擴張したりしが、一八九九年に及びては其總資本額實に一億、一千萬弗にして、世界最大の石油會社となり、近年に及びては遠く我國の石油業にさへ着手するに至りぬ。

一億一千萬弗の大會社

ロックフエツラーの富は今や一億弗を以て數へらる彼は實に少年時代の夢想を實行したるものと云ふべし。貧賤より身を起す豈不可能の事ならんや。

カーネギー

（八）アンドリウ、カーネギー

鋼鐵製造業の事を耳にする人は、必ずや米國にアンドリウ、カーネギーある事を知らん。彼が立身の閲歷は彼をして艱難汝を玉成すとの語の眞味を知らしむるに足る。十二歲の頃よりしてカーネギーは家族を補助せんが爲め綿會社の丁僮となりしが、不斷の注意と勉强とによりて、漸く電信技手となるを得、やがてペンシルヴニア鐵道會社に奉職し、鐵道運輸業に就ひて學ぶを得ぬ。爾後同會社の書記より監督掛に累進したり。同鐵道にて寢臺滊車を使用するに至りしは彼の創意に依る。是よりして

苦き經驗

カーネギーは貧困なりき。此故に苦き經驗を嘗め、是に由つて後年巨萬の富を造るに至りしなり。一八六一年政府の軍事鐵道及び電信を取扱ひて大功あり。次ひでピッツバルクに於てキーストーン橋梁會社を起し、ユニヲン製鐵所、エドガー、トムプソン製鋼所を立て、今や彼は日々二万五千名の工夫を使用する世界最大の鐵鋼鐵製造家となりぬ。

彼れの機運

若し彼れに於て機運なるものありしとせば、其は唯透徹なる思慮と鋭敏なる先見とありしに過ぎざるなり。

砂糖王

（九）クラウス、スプレッケルス

桑港クラウス、スプレッケルは砂糖王の名あり。雑貨商店の番頭より身を起し、數年にして自ら雑貨店を設くるに至りき。後暫にして歐洲に渡航し、マクデブルヒの砂糖精製所に入り、此處に於て砂糖業に精通するを得ぬ。就中甜菜糖の製造術は彼が最も熟達したる所にてあり

見よ此建築を見よ

き。

其歐洲より歸桑するや、大規模を以てカリホルニア精製糖會社を起せり。今や彼は桑港に於ける第一流の豪商にして桑港の誇とも云ふべき巨館大厦の彼れの所有なるもの少からず。彼れの如きは實に其進歩的なる大膽なる商業に由つて成功したる一人と云ふべく、桑港の一名物たる偶然にあらず。桑港に至れる人は、必ずや通常コール館と呼ばれたるスプレッケルの建築を目撃するならん。其堂々たる建築は遙かに幾多の小家屋を下瞰して次の如く語るを覺ふ。曰く見よ、此建築こそは、希望の外一物なく、唯確信を以て幼兒よりの艱難と決戰した る無名の人の手に成れるなれと。其塔上より輝く燈光は、暗夜數哩の海上にある船舶の目標となりつゝあるなり。誰か此燈火を望み見て立身の途なきを歎ずるものあらんや。人身を起す、唯其忍耐勉強膽氣、

志望なきを歎ぜよ。資産なきを悲しむ事なかれ。

（一〇）今村清之助

小說的閒歷

彼の一生は殆んど一部の小說なり。

彼の家は元信州下伊那郡の庄屋なりしが、彼の祖父の時代には家產洗ふが如く、父の代となりて彌々赤貧、彼れは幼少より薪を拾ひ落葉を掻き糊口の資に供したりしが、一日知らずして他の所有地に入り、無上の恥辱を與へられぬ。清之助痕恨禁ず能はず、歸つて是を祖母に語る。祖母の曰く、彼地我舊所有地なりき、家計窮せるに由つて是を人手に渡せり。然れども之を買戻すの約ある也。唯其價を出す能はざるを如何と。清之助是を聞いて家道恢復の念止み難きものあり、遂に意を決し密かに二朱金を奪ひ江戸に發らんとしぬ。時に年十六歲。

橫濱に發る

彼れ江戸に往くや職を求むるに途なし。即ち去つて橫濱に至る。幸

再び橫濱に來る

途上知人に會し其紹介に由り平野なる弗屋に入りしが、偶々親戚某の橫濱に來つて彼を探索せるものあり。路に阻せられ止むなく再び故鄉に歸りぬ。歸來家業を修し、生糸の行商を爲すも依然として赤貧施すべき處なし、再度出發を企て一分金を懷にし、名古屋に向ふ。其熱田に至るの前三名の無賴漢らしきものあり、怪しみて清之助を見、其何處に行くやを以てす。清之助戲れて橫濱に行くものなるを答へしに、彼等詳さに橫濱の實情を尋ね且つ同行を逼る。此處に至つてか名古屋行は一變して橫濱行となり再び橫濱に至りて舊家を訪ふ。此時舊主失敗して其主を異にせるにそ、止むなく木賃宿に入り、螺螄の壺燒を業として僅に口を糊しつゝありしに、圖らず米船にて丁稚を要すと聞き、至れば米船は一聲の滾笛と共に出帆したるにそ、彼が折角の洋行も成らず重ね〳〵の失敗に彼は悲歎の淚に暮るゝのみなりき。然も彼れ

螺蝶の壺燒

は尙前途に望を懷ひて時機を待ちつゝありき。

一日某商會の手代彼の壺燒店に來り、淸之助の鄕里を問ふ。信州に生れ多少其製法を解せる事を聞くに及び、彼を促して其商館に來らん事を以てす。即ち往ひて館主を見、其雇人となり、信州に下りて蠶種の製造に從ひ好成蹟なりしかば、館主彼れに二百金を與へて是を賞しぬ。彼は是を資金として蠶種を購ふて利を博せんとしたるに偶々相場暴落懷中一歩をも餘すなきに至り。此に於てか又洋館に入りしも思はしからず、更に煙草小賣業を營みて小資本を得、之を以て橫濱に洋酒一杯賣を開けり。時に明治二年なりき。此間にも彼は一個の貯蓄箱を造りて日々少許の金錢を貯蓄し、漸く糊口に窮せざりしに至りしに、一夜偶然の事よりして外國の水兵の亂暴に逢ひ、洋酒店を紛碎せられたれば、止むなく又元の才取を業と爲したりき。然るに不圖舊主平野屋に會したりしかば其再興を勸め、自ら彼の店に入つて精勵し漸く社會に働くべき基を造りき。

弗屋となる

平野屋を去りて後彼は又才取を業とし、千難万苦を凌ぎ金穀相場會社の橫濱に設けらるゝに及び、其仲買となり、後擧げられて委員となり、弗屋を開業し事業漸く盛んなり。然も彼れ其經久の道にあらざるを觀破し、十年春東京に出て太物綿類及び兩替の店を開き、各種公債の定期賣買を開きぬ。かくてあるもの六年間資產日に增し來れり。

彼の轉業

海外行

當時彼れ思へらく海外に至らずんば眼を開く能はずと。即ち陸奧宗光と共に歐米を歷遊し、明治十八年歸朝す。彼れ歐米鐵道事業の旺盛なるを見、交通機關の忽緒に附すべからざるを感じ、歸來關西、參宮、山陽、九州等の諸鐵道會社の創立を計りて功あり。遂に明治廿一年二十五萬圓の資本を以て今村銀行を創立して今日に至りぬ。

鐵道と銀行

クリツフハウスの主人公

彼の盛名を聞き其蠑螺の壺燒より身を起したるを知らば誰か其堅忍不拔の氣象に驚かざらんや。彼れ爲人大に俗輩に異なれり、其陸奥を助けたるが如き、平素儉勤毫も富家翁の趣なきが如き、又見るべきものあり。彼も亦實業界の一人物と云ふべし。

（一一）アドルフ、サツトロー

桑港の海岸絶壁を削りたるが如き處に一大館あり、クリツフ、ハウスと云ふ。是れ米國の前大統領ハリメンが、遠く太平洋の渺茫たるを見、近くは澎湃たる波濤が岩に碎くるを目して、無量の感慨に沈みたるの處にして由來名所の一に數へらる。而して此地又豪富サツトローの在りし地として紀念せられつゝあり。サツトローも亦貧窶に生れしものなりき。彼が行商よりして富豪となりし所以の徑路を見るに、又斷々たる決心を以て、艱苦と戰ひ、獨立の志氣を鼓舞したるに由るのみ。

敗して彌々勇を鼓す

大墜道の計畫

サツトローが「バルチモーア」を後に見て桑港に至りしは一八五〇年の十一月、恰もカリホルニアの黄金熱が激しかりし時なりき。彼の從事したる事業は概ね失敗なりき。然れども彼は一難を經る毎に彌々其勇氣を發揮しぬ。彼が輸入商となり、煙草商となりて相當の地歩を占むるまで艱難と戰ひしもの實に九年に渡れり。

一八五九年サツトロー鑛山業の有利なるを悟りネヴダに於て業を起し、次で冶金所を創め、後暫くにして製鑛所を立てぬ。ネヴダの鑛業者中採鑛に就て科學的研究を爲せるものは、獨りサツトロー一人ありしのみ。彼は日夜にダビツドソン山腹に一大墜道を開鑿して所在廿三鑛坑の排水、空氣の流通等を圖らん事に苦心したりしが、漸く墜道會社の資本主を得るに至り、三百萬弗の投資の約を得たり。然れども其事業の極めて大規模なるものから、不安の念は資本家を襲ひ彼等をして

前約を取消さしめたり。然もサットロー些も沮喪する事なく、議會に請願して奏功し、一八六九年十月を以て隧道工事に着手し、一八七八年七月を以て竣功を告げぬ。其工事の大規模なる實に工事上の一紀念と見るべし。

大工事成る

卒倒するまで勉強す

此工事は實に困難にして一ケ月辛ふじて三百呎を開鑿し能ふに過ぎず、一八七七年に至りてコムストックの鑛帶に達するや、熱度俄に加はり、進行は彌々減じて一ケ月二百五十呎を鑿り能ふのみ。此時に當りサットローは常に隧道にありて工事を監督し、工夫を激勵奮起し、自ら泥に塗れ、襤衣をも身にせずして力を致しぬ。其坑中より出で來るや、工夫の間に卒倒したる事も數々之れありしと云ふ。彼の刻苦思ふべし。此工事の如何に大なるかは、其日々の排水量三百五十萬ガロンに達せるにても是を知り得べき也。

サットローのチヴダに成功するや、彼は此資本を以て桑港の中央より太平洋崖に至る二千エーカーの地を購ひ、其より彼のクリッフハウスを建てたりき。一八九四年偶々火を失し、巨館一夜に灰燼に歸せるが、須臾にして是を改築し、壯觀舊に勝れるものとなしぬ。クリッフハウスに近く浴場あり、衣裝室五百、倶樂部室九百、百九十萬ガロンの湛ふる湯槽あり、世界最大の浴場にして、又サットローの立てし處にして、サットロー浴場の名あり。彼れや一八九八年を逝けりと雖も、其紀念は長く桑港に止りて幾貧寒少年を驅起せしめずんば止まざるなり。

クリッフハウスを造る

サットロー浴場

（一二）松本重太郎・關四の雄

關西實業界に覇を稱するものを松本重太郎となす。其關係せる會社銀行四十餘、東都に於ける信望は好一對なり。其社會に有する信望は到底澁澤に及ばず。且つ其性格に於ても彼は整理に長じ、是は創業設

機に適し、一は秩序正しき順路に據り、是は突飛の手段を講ず。彼は德望あり、之れは技倆あり。從つて其出身の徑路も亦大いに異なれり。松本は丹後竹野郡間人村の農家より出づ。十歳にして京都の商家に入り、ある事三年にして大坂に移り、廿四歳にして舶來物品商となり開港地に往來して機敏に立働きしかば幾干ならずして資産を造り得るに至れり。

舶來物品商

彼れの事業

爾後彼れは紡績事業の好望あるを觀取して明治十一年大坂紡績會社を起し、同十八年堂島紡績所を購ひ斯業界の雄鎭たる外、百卅銀行を起し、阪堺鐵道の敷設を爲す等、諸般の銀行、製造業、交通業に對して盡したるの功決して尠なからず。彼れの如きは又以て貧賤少年に向つて燈明たるを失はずと云ふべし

實業家子弟に望む

自助の人の標本的國民を求むれば、英人を最となす。彼等は其尊貴の家に生れたるの故を以て、人を尊ばず。其人自身に有する價値に依つて之を判斷するのみ。假令貴族に生るゝも其人品格を缺かば、英人は之を紳士（ゼントルマン）と呼ばず。彼等生活の第一義は何ぞ。曰く獨立なり、體面なり、品格なり、紳士とは是等の語の總稱に過ぎず。此故に彼等は階級的觀念なく、勞作を賤しまず、他人に依賴せず。獨自の力に依り、獨立の事業を營み、獨立の生活を爲す。是れ大英帝國の今日ある所以に外ならず。國家、團體、家族、知人の援助に依らざれば事を爲し能はざるが如き人民の將來には唯衰滅あるべきのみ。深く思を致さゞるべからざる事ならずや。借問す、日本國民の幾部か果して美人的氣質を備ふるか。

小國時代は去りては大國時代は來りぬ。廿世紀は國民的大競爭の

實業家の成功策　終

時代なり。國民若し獨立自助、艱苦と戰ひ、困難と爭ひ、波濤を凌ぎ、風波を冒して進むの勇なくんば、進化の理法は容赦なく瑞穗の國を洗い去るべし。是れ諸子將に奮起すべきの時にあらずや。天下實業家たらんとする有爲の青年よ。諸子の開拓すべき地域は廣きぞかし。自助獨立して起たば何の業か成らさらん。諸子猛然として蹶起總べての依賴心を廢棄して、壯快なる商戰場裡に出でよ。世界は卿等の爲めに門戶を開ひて待ちつゝあるを見すや。

明治四十一年三月十五日印刷
明治四十一年三月二十日發行

實業成功
定價金貳拾五錢

編纂者　精華堂編輯部
東京市神田區通新石町六番地

發行者　長谷川好太郎
東京市京橋區南小田原町二丁目十二番地

印刷者　今井鐵次郎

發行所　精華堂書店
東京市神田通新石町六番地
大阪市南區安堂寺町四丁目

新編商用簿記
大阪高等商業學校教諭高野復一校閲
大阪高等商業學校卒業尾崎昌次 著
《菊判形》 正價金參十錢 郵送稅金六錢

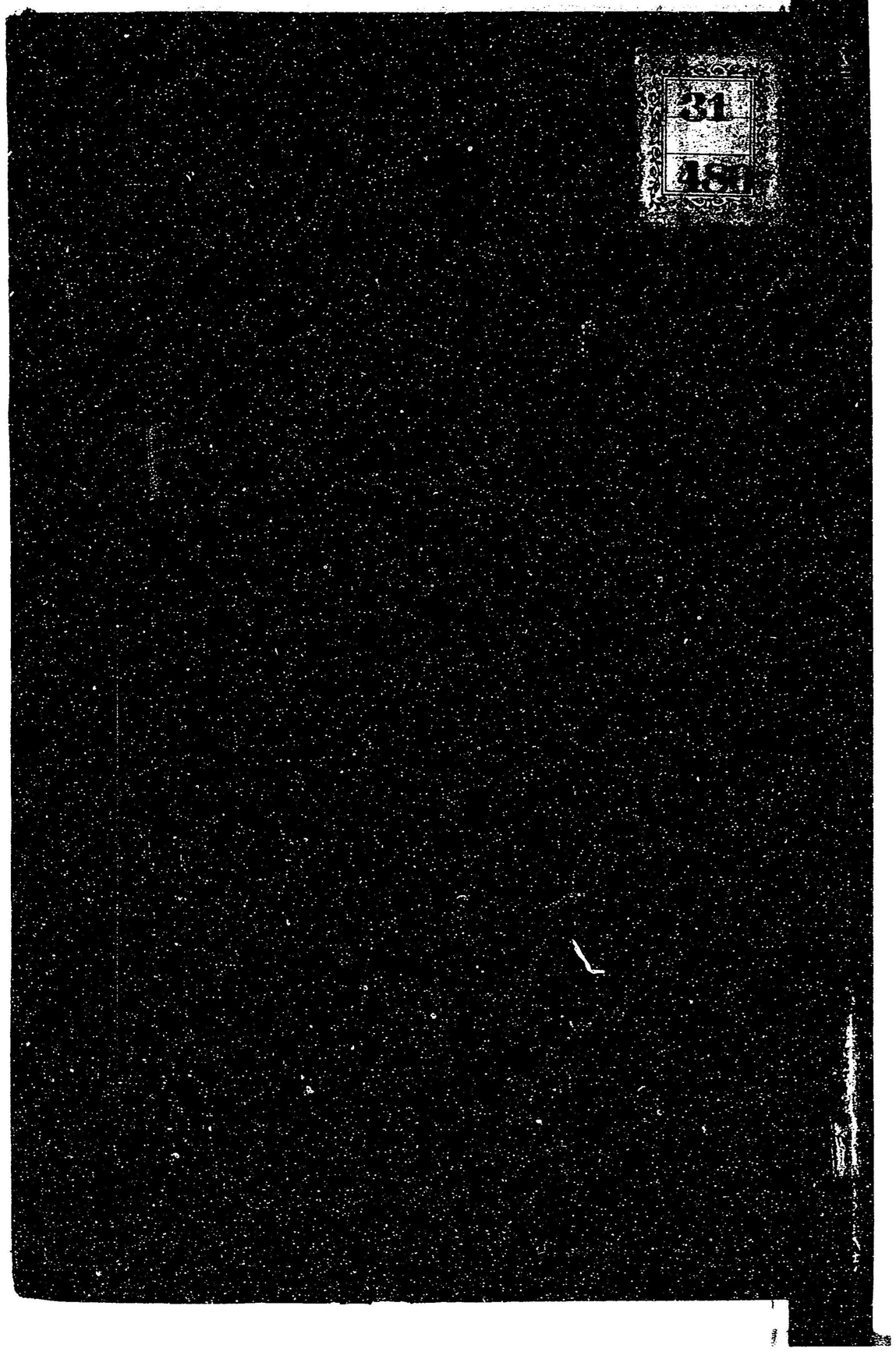
出世の近道
石川謙著
《四六形》 正價金二十錢 郵送稅金四錢

貯金の栞
大川順次郎著
《四六形》 正價金貳十五錢 郵送稅金四錢

成功と失敗
宮村無聲著
《最新形》 正價金貳拾五錢 郵送稅金四錢

發賣所 東京市神田通新石町六番地
大阪市南區安堂寺町四丁目
精華堂書店

31
480

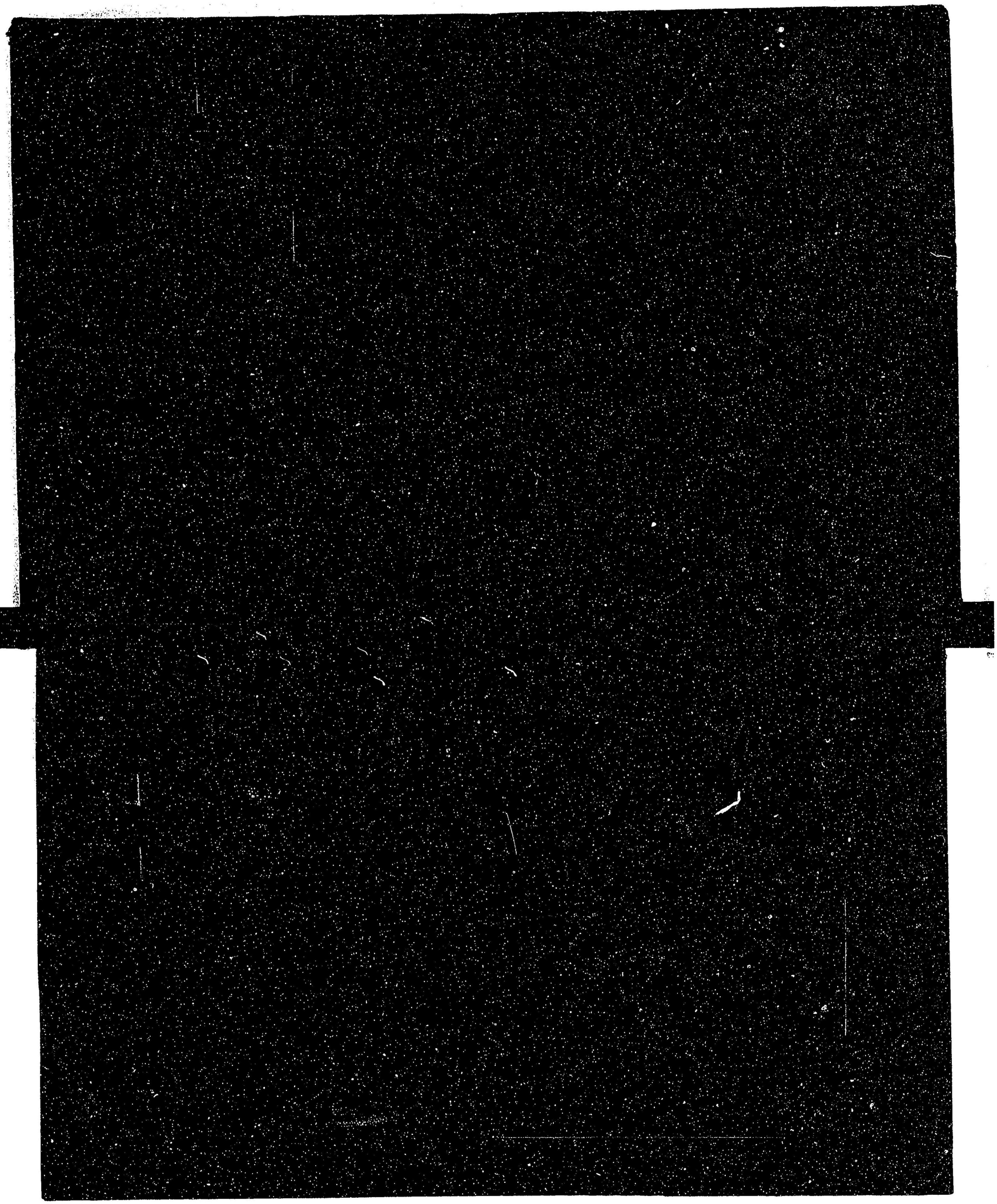
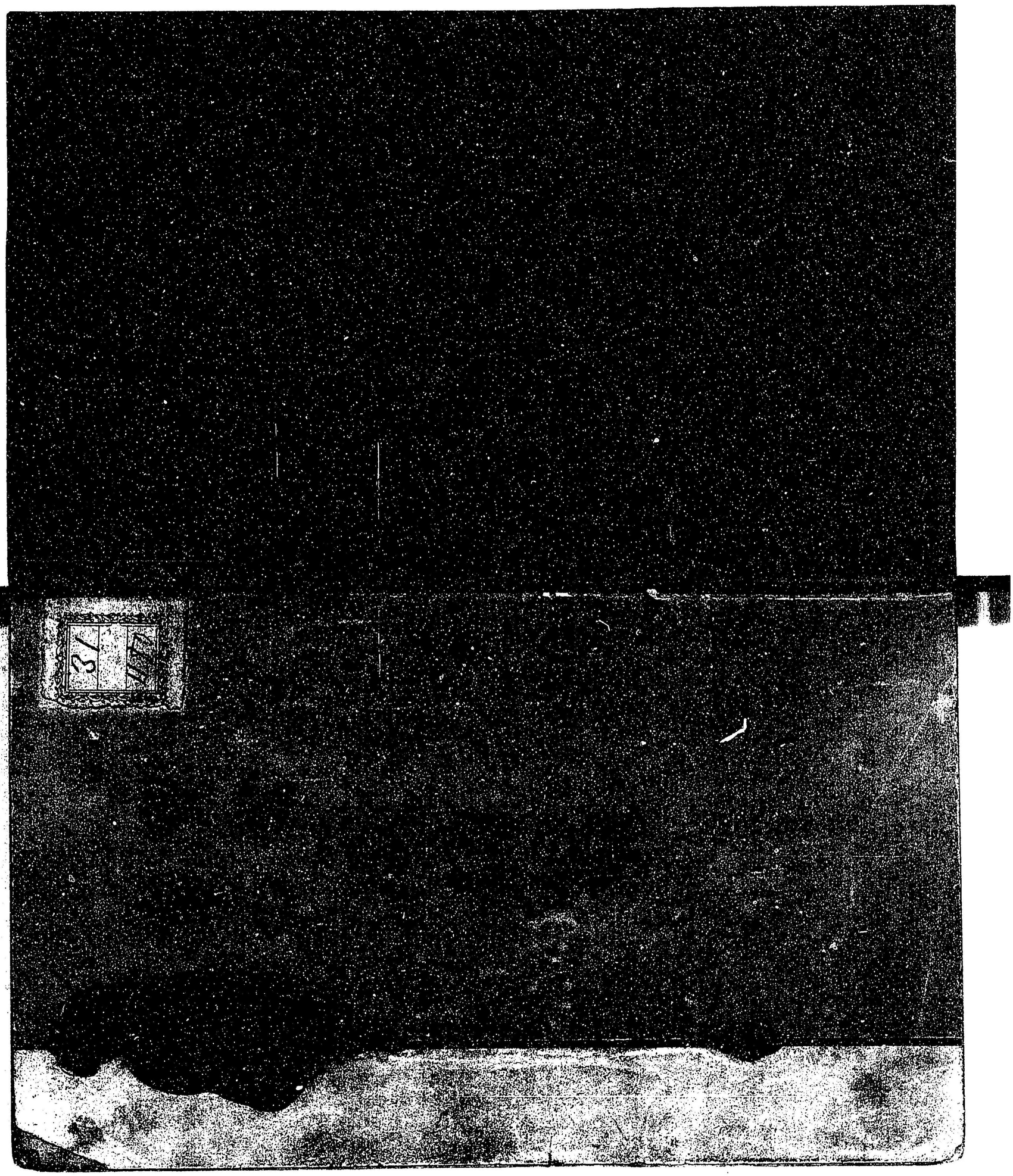


041913-000-0

31-480

実業家の成功策

精華堂／編

M41

BDI-0575